

小山市経済動向実態調査

(令和2年度第1回小山市景気動向アンケート調査結果)

令和2年9月

小山市産業観光部商業観光課委託

白鷗大学ビジネス開発研究所

小山市経済動向実態調査

(令和2年度第1回小山市景気動向アンケート調査結果)

目次

要旨	1
1. 調査の目的	3
2. 調査対象・調査内容	3
2.1. 調査対象	3
2.2. 調査内容	6
3. 調査結果	7
3.1. 全般的な小山市の景気	7
3.2. 小山市における業界の景気	13
3.3. 昨今の社会・経済情勢に関する質問	27
4. まとめ	28
(参考資料)	29
i. 小山市景気動向アンケート調査票(令和2年度第1回)	29
ii. 小山市景気動向アンケート調査(令和2年度第1回)の回答一覧	33
iii. 小山市景気動向アンケート調査(時系列データ)	53

小山市経済動向実態調査プロジェクトメンバー

白鷗大学経営学部准教授・ビジネス開発研究所運営委員	西谷 勢至子
白鷗大学経営学部講師・ビジネス開発研究所運営委員	八尾 政行
白鷗大学総合研究所担当職員	櫻庭 律子
(協力)白鷗大学経営学部教授・ビジネス開発研究所所長	小笠原 伸

小山市経済動向実態調査

(令和 2 年第 1 回小山市景気動向調査)

令和 2 年 9 月

白鷗大学ビジネス開発研究所

白鷗大学ビジネス開発研究所では、小山市産業観光部商業観光課からの委託を受けて小山市の消費面を中心とした経済動向を把握するため、平成 14 年度以降、小山市経済動向実態調査を実施している。令和 2 年度小山市経済動向実態調査では、小山市景気動向アンケート調査(6 月と 12 月)とヒアリング調査(1 月)を予定している。本報告書は令和 2 年度小山市景気動向アンケート調査(第 1 回)の調査結果をまとめたものである。

要旨

令和 2 年 6 月から 7 月にかけて実施した「小山市景気動向アンケート調査(令和 2 年度第 1 回)」の結果をみると、令和 2 年上半期(1~6 月期)の小山市の全般的な景況感は、「悪い」の割合が大幅に上昇し、景況感が急速に悪化したことがわかる。景気動向指数(DI)の観点からは、本調査が開始された平成 14 年度以来、最低の水準を記録し、過去にない厳しい景況感の表れとなった。その理由としては、「お客様や取引先の様子」、「小山市の人出の状況」といったものが上位に挙げられていたが、それらは新型コロナウイルス感染症の世界的な流行に起因するものであると考えられる。また、小山市の景気見通しに関して、前回、前々回の調査と比べ、「変わらない」の割合が大きく減り、「悪くなる」の割合が大きく上昇した一方で、「良くなる」、「やや良くなる」の割合にも上昇がみられた。その理由として、感染症流行の最悪期を脱したのではないかという期待がある一方で、感染症流行の第二波、第三波を懸念するなど先行きの不透明感がみられ、意見が分かれる結果となった。全般的には、前回、前々回の調査と同程度の厳しい見方が続いている。

業界の小山市での売上金額についての回答についてみると、令和 2 年上半期(1~6 月期)は「減少した」の割合が大きく上昇した。DI も前回調査から急激に低下し、本調査の開始以来、リーマン・ショック後の平成 20 年下半期に次いで 2 番目に低い水準だった。売上の先行きについても、「減少する」の割合が大きくなった。DI も前回調査から大きく低下し、本調査の開始以来、リーマン・ショック期の平成 20 年下半期、平成 20 年上半期に次いで 3 番目に低い水準となった。これらの理由についても、やはり新型コロナウイルス感染症の流行に起因するものとみられる。

販売価格見通しについて、令和 2 年下半期(7~12 月期)は上半期と比べ、「低下する」の割合が大きく上昇し、「やや上昇する」の割合が大きく低下した。DI も大きく下落し、2 期ぶりに 50%を下回った。雇用見通しについては、令和 2 年下半期(7~12 月期)は上半期と比べ、「横ばい」、「やや過剰となる」、「過剰となる」の割合が上昇し、「不足する」、「やや不足する」の割合が低下した。DI も急低下し、平成 25 年上半期以

来、15 期ぶりに 50%を下回った。資金繰りの状況に関して、令和 2 年上半期(1~6 月期)は、「やや悪化した」、「悪化した」の割合が上昇し、「どちらともいえない」の割合が低下した。DI でみると、前回、前々回から低下傾向が続き、2 期連続で 50%を下回った。資金繰りの状況についての回答の理由についてみると、「売上高の変化」が 50.0%と、他の項目と比べ突出している。賃金等の状況について、全般的にベースアップを実施、ボーナスの実施などといった、賃上げに関する項目の割合が低下し、ボーナスの減額といった賃下げに関する項目の割合が上昇した。

今回のアンケート調査で追加した、「新型コロナウイルス感染症の流行とその後の非常事態宣言の影響」に関する質問では、「需要全体が減少した」、「営業時間の短縮・変更等を余儀なくされた」、「従業員の勤務に困難が生じた」といった回答が上位に挙げられた。

以上のように、令和 2 年上半期(1~6 月)の小山市の景況感に関して、現状で、多くの企業・店舗が新型コロナウイルス感染症の流行により経済的に負の影響を受け、その結果、景況感が急速に悪化したことがわかる。また、景気の先行きについては今後の感染症流行をどのように判断するかについて意見が分かれたが、先行きの不透明感から、前回、前々回の調査と同程度の厳しい見方が続いている。引き続き、新型コロナウイルス感染症の世界的な流行の推移を注視していく必要があるだろう。

1. 調査の目的

小山市景気動向アンケート調査は、小山市の景気動向を把握するため、小山市の流通業、サービス業、製造業などの企業、店舗に対して小山市の景況、各業界の業況等をアンケート形式で調査したものである。

2. 調査対象・調査内容

2.1. 調査対象

令和2年6月から7月にかけて、小山市内の企業120社程度を対象に小山市の景気動向に関するアンケート調査を行い、46社から回答を得た。回収率は約38%である。

図表 2-1 回答企業の業種別構成

業種	社数(社)	
	今回	前回
流通業(小売業)	11	12
製造業	11	9
金融・保険業	4	2
運輸業	3	3
ホテル・旅館業	1	1
飲食業	0	1
通信・放送業	2	2
不動産・住宅業	4	3
サービス業	7	12
印刷業	1	1
不明	2	5
合計	46	51

(注) 前回は令和元年12月調査

前回調査(令和元年12月)に比べ

- ・ 増加した業種: 製造業、金融・保険業、不動産・住宅業
- ・ 減少した業種: 流通業(小売業)、飲食業、サービス業、不明

図表 2-2 回答企業の従業者数

従業員数 (人)	企業数 (社)	構成比 (%)		
		今回	前回	前々回
1~4	8	17.4	12	22
5~9	6	13.0	16	9
10~19	6	13.0	8	7
20~29	3	6.5	6	9
30~49	3	6.5	4	7
50~99	9	19.6	28	26
100 以上	9	19.6	16	17
不明	2	4.3	10	4
合計	46	100.0	100.0	101.0

(注) 前回は令和元年 12 月調査、前々回は令和元年 6 月調査。個々の構成比の四捨五入の関係で合計しても 100%にならないことがある。

前回調査(令和元年 12 月)に比べ

- ・ 構成比が 2%ポイント以上上昇した従業者規模: 1~4 人、10~19 人、30~49 人、100 人以上
- ・ 構成比が 2%ポイント以上減少した従業者規模: 5~9 人、50~99 人、不明

図表 2-3 回答企業の売上高

売上高 (円)	企業数 (社)	構成比 (%)		
		今回	前回	前々回
3,000 万未満	7	15.2	12	11
3,000 万~1 億未満	3	6.5	4	9
1 億~5 億未満	13	28.3	26	20
5 億~10 億未満	4	8.7	16	11
10 億以上	8	17.4	18	26
不明・該当なし	11	23.9	26	24
合計	46	100.0	102.0	101.0

(注) 前回は令和元年 12 月調査、前々回は令和元年 6 月調査。個々の構成比の四捨五入の関係で合計しても 100%にならないことがある。生産高を回答した企業は該当なしに分類した。

前回調査(令和元年 12 月)に比べ

- ・ 構成比が 2%ポイント以上上昇した年間売上高規模: 3,000 万円未満、3,000 万円~1 億円未満、1 億円~5 億円未満
- ・ 構成比が 2%ポイント以上低下した年間売上高規模: 5 億円~10 億円未満、不明・該当なし

図表 2-4 回答企業における売上割合

小山市内の売上割合 (%)	企業数 (社)	構成比 (%)		
		今回	前回	前々回
80～100	15	32.6	22	30
60～79	7	15.2	22	24
40～59	6	13.0	8	11
20～39	6	13.0	18	9
0～19	10	21.7	20	17
不明・該当なし	2	4.3	12	9
合計	46	100.0	102.0	100.0

(注) 前回は令和元年12月調査、前々回は令和元年6月調査。個々の構成比の四捨五入の関係で合計しても100%にならないことがある。

小山市内の売上割合が60%以上の企業数の合計は22社(47.8%)となった(前回調査: 43%)。

2.2. 調査内容

今回の調査内容は、質問 1 から質問 14 までは、従来の調査と同様に、景況感に関わる項目である。そのうち、質問 1 から質問 4 までは、全般的な小山市の景気の現状および先行きに関してたずね、質問 5 から質問 14 までは、回答企業自身についての現状および先行きに関してたずねている。また、最後の質問 (質問 15)は新型コロナウイルス感染症の流行とその後の非常事態宣言の影響に関する質問事項となっている。

質問 1: 小山市の景気の現状(水準)

質問 2-1: 質問 1 の回答理由

質問 2-2: 質問 2-1 の回答理由

質問 3: 令和 2 年下半期(7~12 月期) の小山市の景気見通し

質問 4: 質問 3 の回答理由

質問 5: 業界の小山市での売上げ(売上金額の増減)

質問 6-1: 質問 5 の回答理由(家計消費向け取引)

質問 6-2: 具体的な回答(家計消費向け取引)

質問 6-1: 質問 5 の回答理由(企業消費向け取引)

質問 6-2: 具体的な回答(企業消費向け取引)

質問 7: 業界の小山市での売上見通し

質問 8: 質問 7 の回答理由

質問 9: 令和 2 年下半期(7~12 月期) の販売価格見通し

質問 10: 令和 2 年下半期(7~12 月期) の雇用見通し

質問 11: 令和 2 年上半期(1~6 月期) の資金繰りの状況

質問 12: 質問 11 の回答理由

質問 13: 令和 2 年度の賃金等の状況

質問 14: 質問 13 の回答理由

質問 15: 新型コロナウイルス感染症の流行とその後の非常事態宣言の影響

3. 調査結果

3.1. 全般的な小山市の景気

質問 1 から質問 4 までは、全般的な小山市の景気についてたずねた。以下その結果を述べる。

3.1.1. 小山市の景気の現状(水準)(質問 1, 2-1, 2-2)

質問 1 では全般的な小山市の景気の現状(水準)をたずねた。令和 2 年上半期(1~6 月期)は「良い」0%、「やや良い」0%、「どちらともいえない」6.5%、「やや悪い」28.3%、「悪い」65.2%となった。前回、前々回と比べ「悪い」の割合が大きく上昇した。前回調査(令和元年 12 月)と比べ、

- ・ 3%ポイント以上増加: 「悪い」(+59.3)
 - ・ 3%ポイント以上減少: 「やや良い」(-11.8)、「どちらともいえない」(-28.8)、「やや悪い」(-16.8)
- となった。DI¹で見ると 10.3%と前回(38.5%)、前々回(44.5%)から急激に低下した。DI は 3 期連続で 50%を下回った(図表 3-1,3-2)。今回の DI は本調査が開始された平成 14 年度以降最低の水準であり、過去にない厳しい景況感の表れとなった。

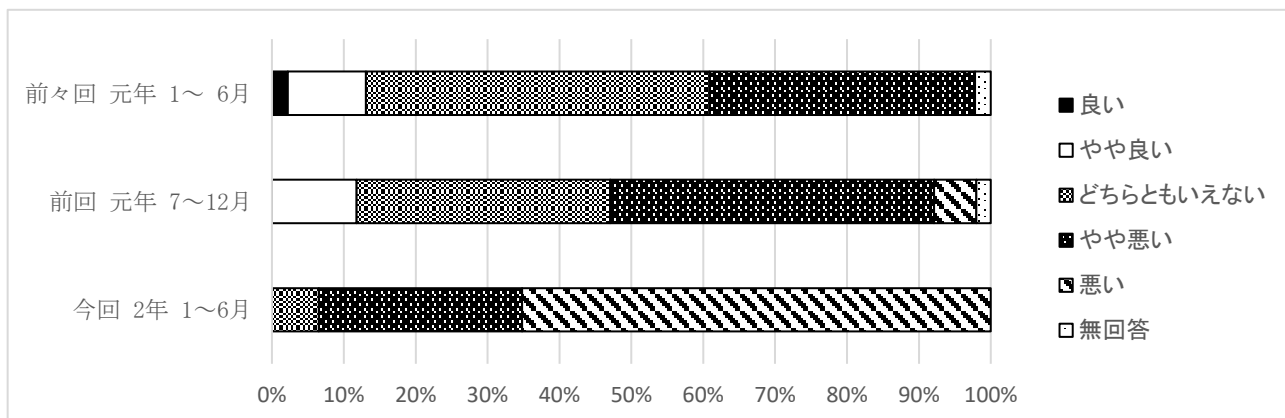
質問 1 の回答理由(質問 2-1)についてみると、「お客様や取引先の様子」(45.7%)、「それ以外」(34.8%)、「小山市の人出の状況」(17.4%)が上位三位までの理由だった(図表 3-3)。「それ以外」の具体的な理由の大多数は新型コロナウイルス感染症流行によるものだった。他には、令和元年 10 月の消費税増税が挙げられていた。

質問 1 の具体的な回答内容(質問 2-2)でも、新型コロナウイルス感染症流行や、緊急事態宣言による経済活動への負の影響が挙げられていた。

¹ DI (Diffusion Index)とは、景気動向指数の一つであり、回答(%)の「良い」を 1、「やや良い」を 0.75、「どちらともいえない」を 0.5、「やや悪い」を 0.25、「悪い」を 0 とし、構成比(無回答を除く)で加重平均したものである。DI が 50%を超えると景気回復、50%を下回ると景気悪化を示唆している。

質問 1: 小山市の景気の現状(水準)

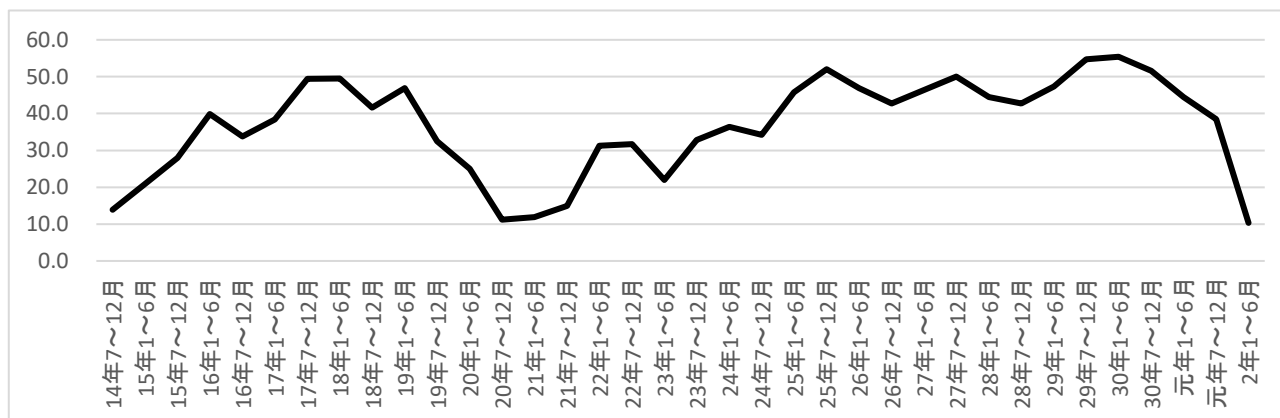
図表 3-1 回答の割合と DI(前回、前々回との比較を含む)



(%)

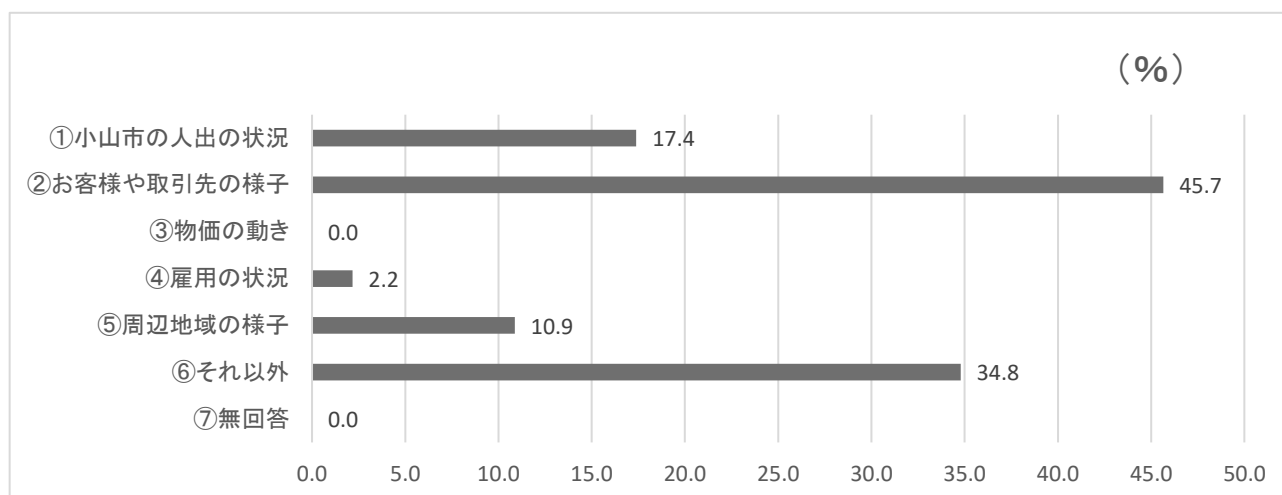
	良い	やや良い	どちらとも いえない	やや悪い	悪い	無回答	DI
今回 2年 1～6月	0.0	0.0	6.5	28.3	65.2	0.0	10.3
前回 元年 7～12月	0.0	11.8	35.3	45.1	5.9	2.0	38.5
前々回 元年 1～6月	2.2	10.9	47.8	37.0	0.0	2.2	44.5

図表 3-2 DI の推移(%)



質問 2-1: 質問 1 の回答理由

図表 3-3 回答の割合と DI(前回、前々回との比較を含む)



		(%)						
質問 2-1	質問 1	①小山市の人出の状況	②お客様や取引先の様子	③物価の動き	④雇用の状況	⑤周辺地域の様子	⑥それ以外	無回答
良い		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
やや良い		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
どちらともいえない		2.2	0.0	0.0	0.0	2.2	2.2	0.0
やや悪い		8.7	17.4	0.0	2.2	8.7	2.2	0.0
悪い		6.5	28.3	0.0	0.0	0.0	30.4	0.0
無回答		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
合計		17.4	45.7	0.0	2.2	10.9	34.8	0.0

(注)46 社に対する比率(%)。複数回答可のため合計は 100%にならない。

質問 2-2: 質問 2-1 の回答理由

- ◆ どちらともいえない:
 - ・ 「先行不透明」(⑥それ以外)
- ◆ やや悪い:
 - ・ 「新型コロナウイルス自粛の為 6 月中旬迄の人出が極めて少なかった。」(①小山市の人出の状況)
 - ・ 「4 月頃までは前年並みかあるいは若干営業実績はよかった。5 月に入り局面が変わった。客足は悪くなるが高額なものが減り、単価減が見られる。」(②お客様や取引先の様子)
 - ・ 「新型コロナウイルスのため人通りがない」(⑤周辺地域の様子)
- ◆ 悪い:
 - ・ 「新型コロナウイルスの影響により市内のイベントがすべて中止となった。3密を避けるためテイクアウト・デリバリーなど人の外出が減少した。」(①小山市の人出の状況)
 - ・ 「予算の取ってある工事以外は延期または中止」(②お客様や取引先の様子)
 - ・ 「産業は業種を問わず何らかの影響があり、特に非常事態宣言等による人の行き来が制限されたことによるものが大きいと感じる。」(⑥それ以外)
 - ・ 「新型コロナウイルス感染症の影響から、人の動きが鈍くなっている。巣籠り消費は堅調な一方で、自粛が常態化し、消費者の購買意欲は低下した。」(⑥それ以外)
 - ・ 「昨年 10 月からの消費税増税に伴い、売上げが減少、これらの動きが落ち着いてきたところでコロナ、緊急事態宣言により消費の流れがストップ。売上げのさらなる減少。」(⑥それ以外) など

3.1.2. 令和2年下半期(7～12月期)の小山市の景気見通し(質問3,4)

質問3の小山市の景気見通しに関して、令和2年下半期(7～12月期)は上半期と比べ、「良くなる」6.5%、「やや良くなる」23.9%、「変わらない」28.3%、「やや悪くなる」17.4%、「悪くなる」19.6%となった(図表3-4, 3-5)。前回、前々回と比べ「悪くなる」の割合が大きく上昇した。一方で、「良くなる」、「やや良くなる」の割合にも上昇がみられた。前回調査(令和元年12月)と比べ、

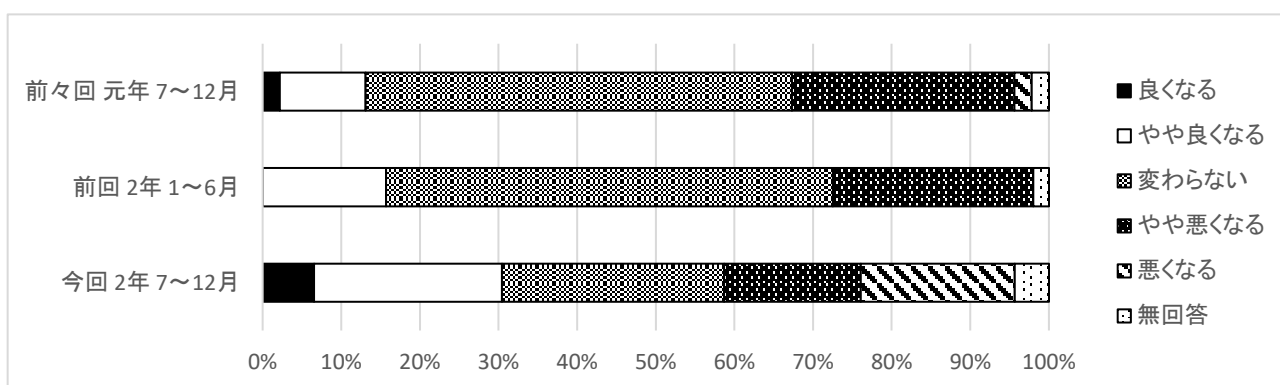
- ・ 3%ポイント以上増加: 「良くなる」(+6.5)、「やや良くなる」(+8.2)、「悪くなる」(+19.6)
- ・ 3%ポイント以上減少: 「変わらない」(-28.6)、「やや悪くなる」(-8.1)

となった。DIでみると44.9%と前回(47.6%)、前々回(45.6%)と横ばいの状況が続いているが、3期連続で50%を下回った。

質問4の質問3の理由では、最悪期を脱したという見方がある一方で、引き続き新型コロナウイルス感染症の影響を懸念する見方もあった。回答企業により景気見通しが分かれる結果となったが、全体的には前回、前々回と同程度の見通しとなった。

質問3: 令和2年下半期(7～12月期)の小山市の景気見通し

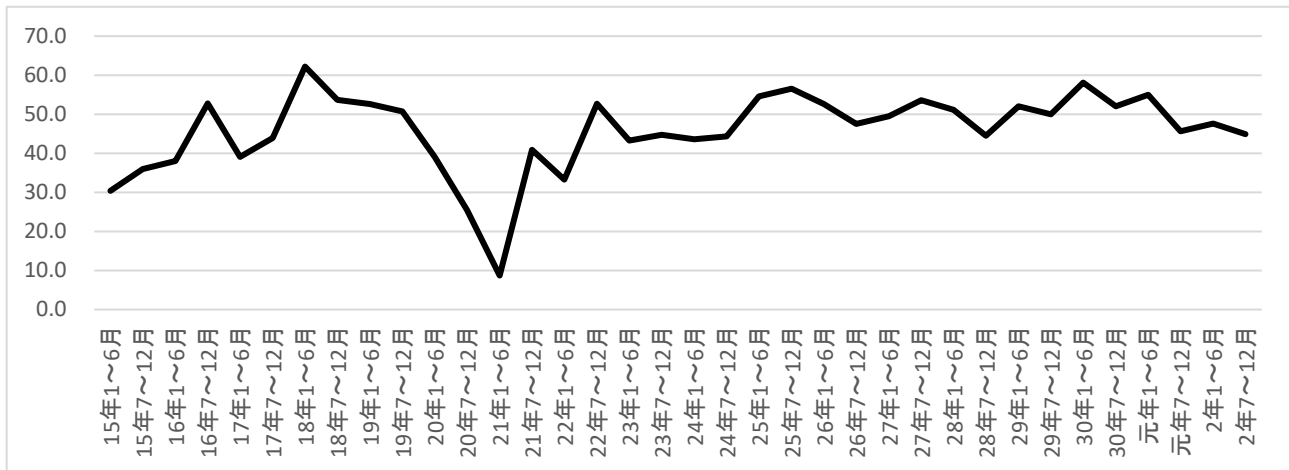
図表 3-4 回答の割合とDI(前回、前々回との比較を含む)



(%)

見通しの対象時期	良くなる	やや良くなる	変わらない	やや悪くなる	悪くなる	無回答	DI
今回 2年 7～12月	6.5	23.9	28.3	17.4	19.6	4.3	44.9
前回 2年 1～6月	0.0	15.7	56.9	25.5	0.0	2.0	47.6
前々回 元年 7～12月	2.2	10.9	54.3	28.3	2.2	2.2	45.6

図表 3-5 DI の推移(%)



質問 4: 質問 3 の回答理由

- ◆ 良くなる
 - ・ 「自粛解除や給付金の交付により、消費意欲は徐々に改善するものと思われる。」
- ◆ やや良くなる
 - ・ 「最悪期は脱したのでは、との見込みから」
 - ・ 「自粛要請などの制限の緩和」
- ◆ 変わらない
 - ・ 「新型コロナウイルス感染症第 2 波・第 3 波の懸念が残り、消費拡大の見込みが薄いため。」
 - ・ 「非常事態宣言が解除されても、慎重に行動する人が多いのではないかとと思われるため。」
- ◆ やや悪くなる
 - ・ 「まだコロナ騒動は長引く」
 - ・ 「コロナウイルスの影響で収入などが不安定なのではないかと思う。」
- ◆ 悪くなる
 - ・ 「新型コロナウイルスによる消費低迷」
 - ・ 「景気の回復は製造業の場合は遅れてくる。コロナの影響が収まってもその後しばらくは回復しない。」

など

3.2. 小山市における業界の景気

質問 5 から質問 14 までは、小山市における回答企業・店舗の業界景気動向をたずねた。以下その結果を述べる。

3.2.1. 業界の小山市での売上げ(質問 5, 6-1, 6-2)

業界の小山市での売上げについて、令和 2 年上半期(1~6 月期)は「増加した」2.2%、「やや増加した」8.7%、「変わらない」10.9%、「やや減少した」32.6%、「減少した」45.7%となった(図表 3-6, 3-7)。前回、前々回と比べ「減少した」の割合が大きく上昇した。前回調査(令和元年 12 月)と比べ、

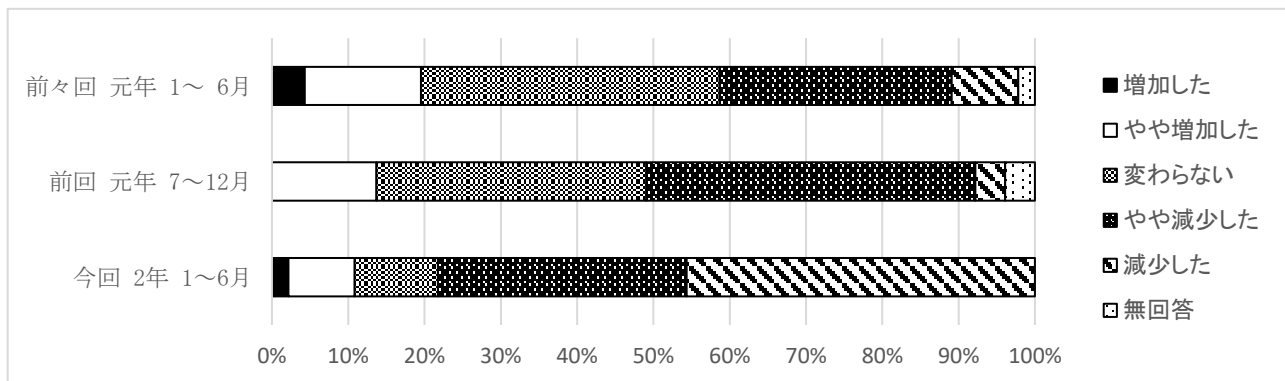
- ・ 3%ポイント以上増加: 「減少した」(+41.8)
 - ・ 3%ポイント以上減少: 「やや増加した」(-5.0)、「変わらない」(-24.4)、「やや減少した」(-10.5)
- となった。DI でみると 22.3%と前回(40.3%)、前々回(43.8%)から急激に低下し、3 期連続で 50%を下回った。今回の DI は本調査が開始された平成 14 年度以降、平成 20 年下半期の 16.9%に次いで 2 番目に低い値だった。

質問 5 の回答の理由(質問 6-1)についてみると、家計向け取引の場合、「無回答」を除いて、「来客数の動き」(21.7%)、「販売量の動き」(19.6%)、「それ以外」(13.0%)が上位三位までの理由だった(図表 3-8)。質問 6-2 では新型コロナウイルス感染症の流行により、人々の移動・行動が制限されたことによる負の影響が回答として多く見られた。

企業向け取引の場合、「無回答」を除いて、「受注量や販売量の動き」(47.8%)、「取引先の様子」(8.7%)、「それ以外」(6.5%)が上位三位までの理由だった(図表 3-9)。質問 6-2 では家計向け同様に、新型コロナウイルス感染症の流行の負の影響がみられる。

質問 5: 業界の小山市での売上げ(売上金額の増減)

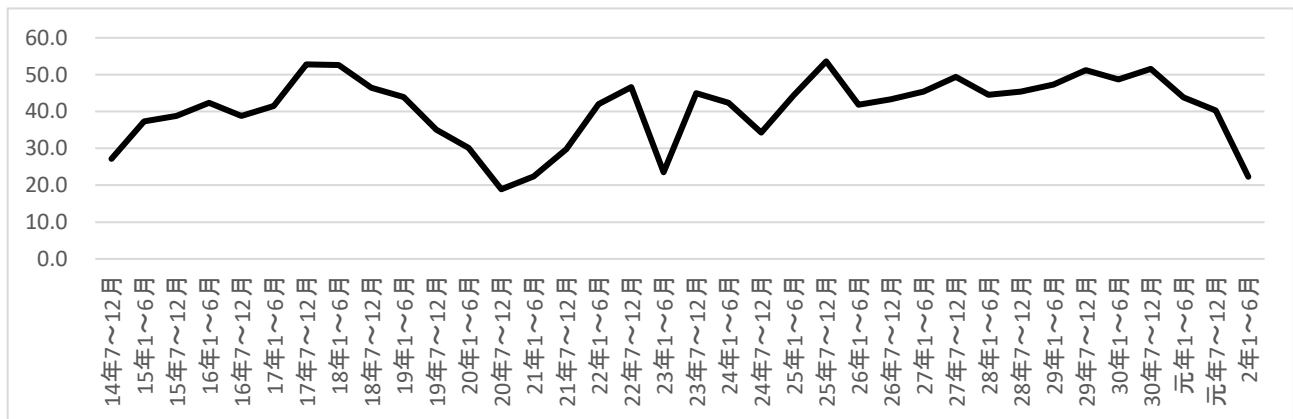
図表 3-6 回答の割合とDI(前回、前々回との比較を含む)



(%)

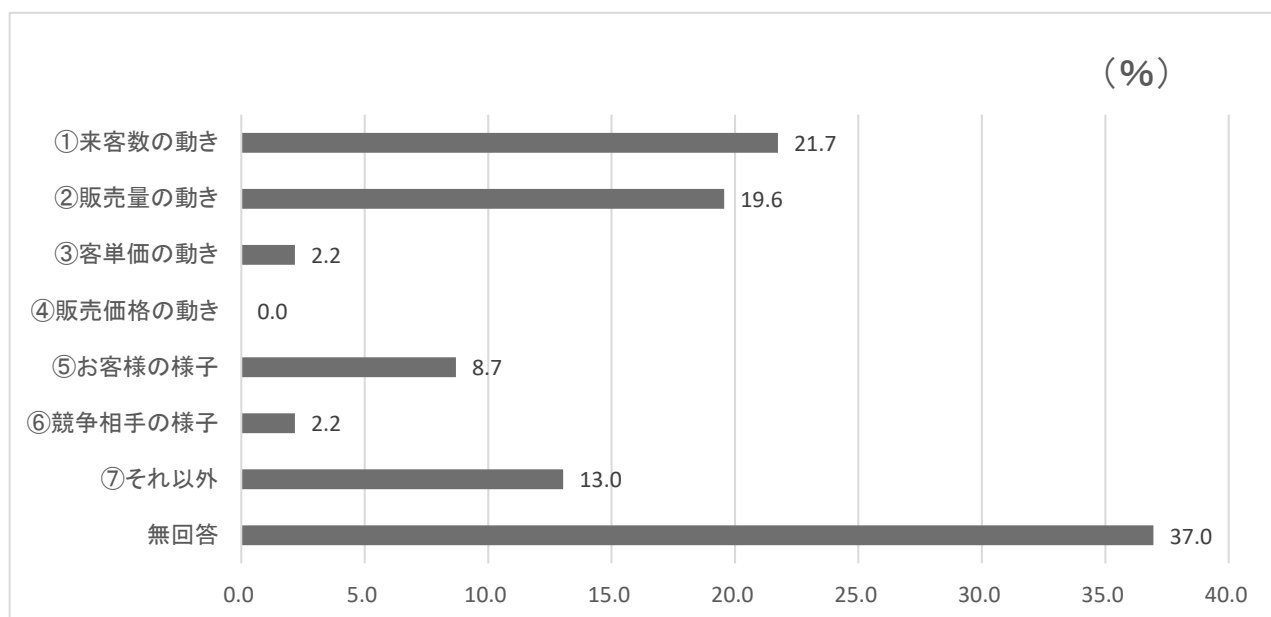
	増加した	やや増加した	変わらない	やや減少した	減少した	無回答	DI
今回 2年 1～6月	2.2	8.7	10.9	32.6	45.7	0.0	22.3
前回 元年 7～12月	0.0	13.7	35.3	43.1	3.9	3.9	40.3
前々回 元年 1～6月	4.3	15.2	39.1	30.4	8.7	2.2	43.8

図表 3-7 DI の推移(%)



質問 6-1: 質問 5 の回答理由(家計消費向け取引)

図表 3-8 質問 5 と質問 6-1(家計消費向け取引)のクロス集計

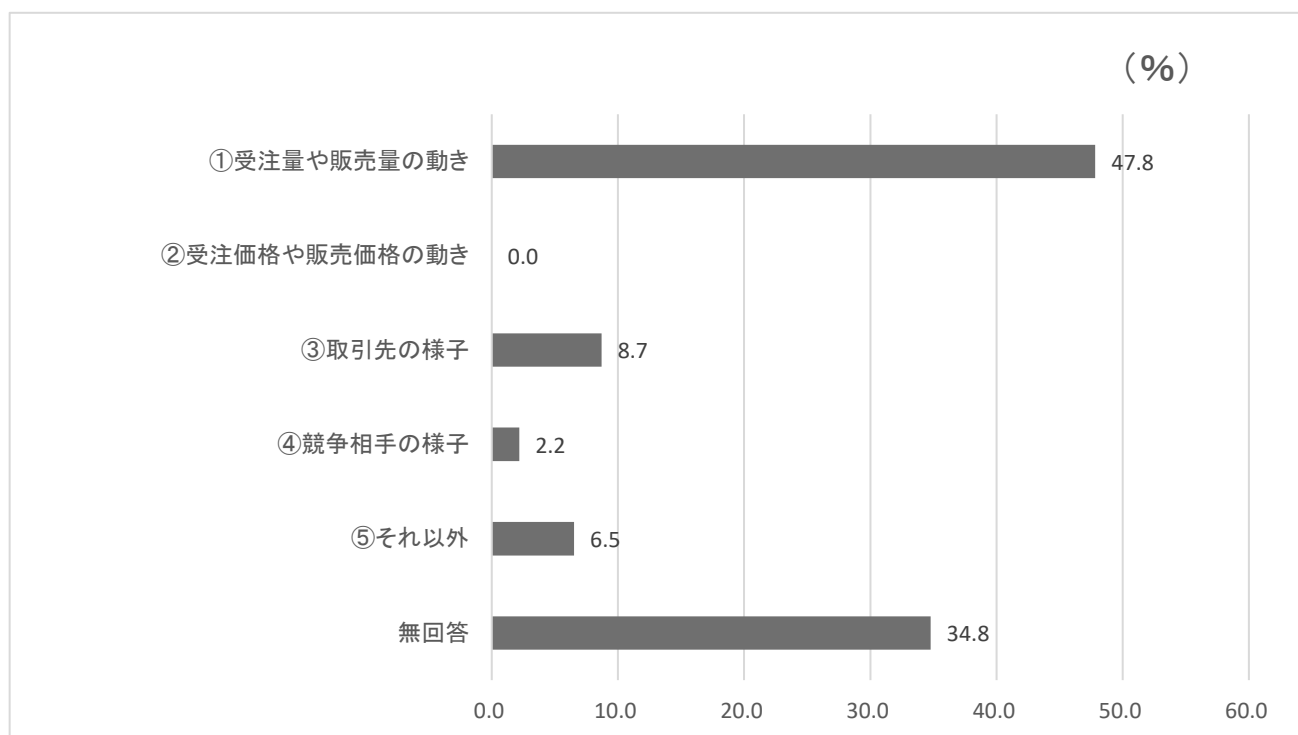


(%)

質問 6-1 質問 5	①来客数 の動き	②販売量 の動き	③客単価 の動き	④販売価格 の動き	⑤お客様 の様子	⑥競争相手 の様子	⑦それ 以外	無回答
増加した	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.2	0.0
やや増加した	0.0	2.2	0.0	0.0	0.0	0.0	2.2	4.3
変わらない	0.0	4.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.5
やや減少した	8.7	4.3	2.2	0.0	4.3	2.2	0.0	15.2
減少した	13.0	8.7	0.0	0.0	4.3	0.0	8.7	10.9
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
計	21.7	19.6	2.2	0.0	8.7	2.2	13.0	37.0

質問 6-1: 質問 5 の回答理由(企業消費向け取引)

図表 3-9 質問 5 と質問 6-1(企業消費向け取引)のクロス集計



質問 5	①受注量 や販売量	②受注価格 や販売価格	③取引先 の様子	④競争相手 の様子	⑤それ以外	無回答
増加した	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.2
やや増加した	2.2	0.0	0.0	0.0	2.2	4.3
変わらない	6.5	0.0	2.2	0.0	0.0	2.2
やや減少した	21.7	0.0	4.3	2.2	0.0	4.3
減少した	17.4	0.0	2.2	0.0	4.3	21.7
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
計	47.8	0.0	8.7	2.2	6.5	34.8

質問 6-2: 具体的な回答(家計消費向け取引)

- ◆ 増加した
 - ・ 「野木町を事業エリアとしたことにより顧客の増加」(通信・放送業)
- ◆ やや増加した
 - ・ 「融資取引の増加」(金融・保険業)
- ◆ やや減少した
 - ・ 「集まって行う事、イベントなどができなかったため」(流通業(小売業))
 - ・ 「土地など探しに来店するお客様が減少している」(不動産・住宅業)
- ◆ 減少した
 - ・ 「昼については病院への通院の制限による減少・イベントの中止。夜については飲食店休業・営業時間の短縮、冠婚葬祭の中止・延期。鉄道利用者の減少。」(運輸業)
 - ・ 「コロナ感染対策として短縮営業を実施」(サービス業)
など

質問 6-2: 具体的な回答(企業消費向け取引)

- ◆ やや増加した
 - ・ 「コロナ資金の伸びが著しい」(金融・保険業)
- ◆ やや減少した
 - ・ 「5,6月の受注激減」(製造業)
- ◆ 減少した
 - ・ 「新型コロナウイルスの影響により、取引先の受注量や販売量が大きく減少したため。」(流通業(小売業))
 - ・ 「コロナ以前から製造業関連は米中摩擦や日韓貿易問題などで、低調だったが、3月以降、月を追うごとに販売量見積りとも激減している。」(製造業)
など

3.2.2. 業界の小山市での売上見通し(質問 7, 8)

業界の小山市での売上見通しに関して、令和2年下半期(7～12月期)は上半期と比べ、「増加する」2.2%、「やや増加する」17.4%、「変わらない」28.3%、「やや減少する」17.4%、「減少する」30.4%となった(図表 3-10, 3-11)。前回、前々回と比べ「減少する」の割合が大きく上昇した。前回調査(令和元年12月)と比べ、

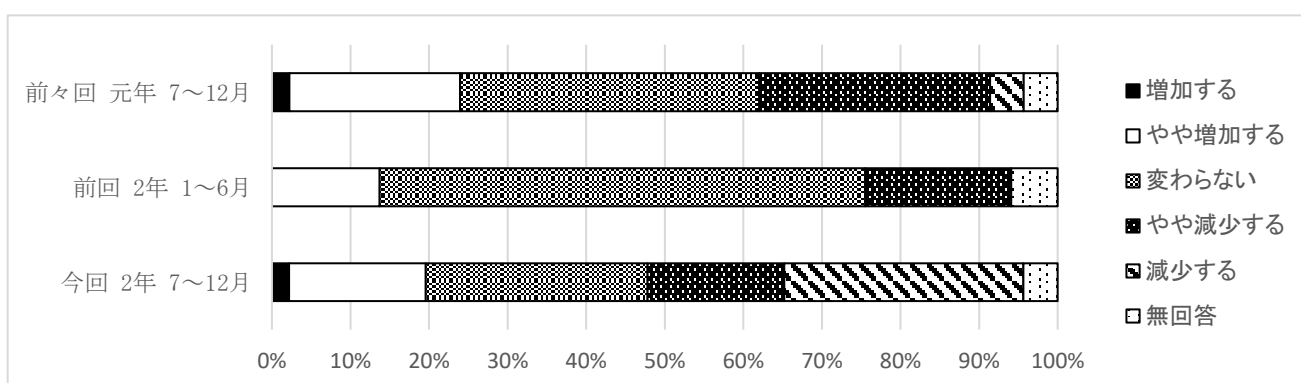
- ・ 3%ポイント以上増加: 「やや増加する」(+3.7)、「減少する」(+30.4)
- ・ 3%ポイント以上減少: 「変わらない」(-33.5)

となった。DI でみると 35.2%と横ばいだった前回(48.7%)、前々回(46.8%)から急低下し、3期連続で50%を下回った。今回のDIは本調査が開始された平成14年以降、平成20年下半期の14.4%、平成20年上半期の28.8%に次いで3番目に低い水準だった。

質問7の回答の理由(質問8)についてみると、移動・行動制限が緩和されることによる消費の拡大を期待する意見がある一方で、引き続き消費の低迷・設備投資の減少を懸念する意見が多く挙げられていた。

質問 7: 業界の小山市での売上見通し

図表 3-10 回答の割合とDI(前回、前々回との比較を含む)

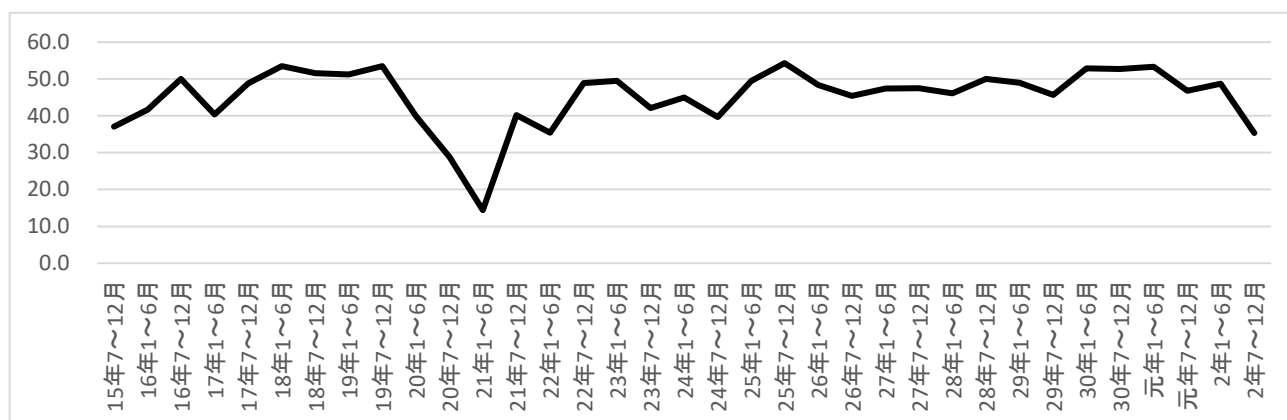


(%)

見通しの対象時期	増加する	やや増加する	変わらない	やや減少する	減少する	無回答	DI
今回 2年 7～12月	2.2	17.4	28.3	17.4	30.4	4.3	35.2
前回 2年 1～6月	0.0	13.7	61.8	18.6	0.0	5.9	48.7
前々回 元年 7～12月	2.2	21.7	38.0	29.3	4.3	4.3	46.8

(注) 複数選択した回答は無回答に分類した。

図表 3-11 DI の推移(%)



質問 8: 質問 7 の回答理由

- ◆ やや増加した
 - ・ 「自粛解除による購買意欲の上昇」(流通業(小売業))
 - ・ 「非常事態宣言解除により人の移動が増加するため」(運輸業)
- ◆ 変わらない
 - ・ 「悪い状態が続いてしまうと思う」(流通業(小売業))
 - ・ 「徐々に前のような生活に戻っている」(サービス業)
- ◆ やや減少した
 - ・ 「コロナ禍により、上半期消費低迷を受け、メーカーが生産調整を行っているため。」(製造業)
 - ・ 「価格競争により単価はさらに下がる」(不動産・住宅業)
- ◆ 減少した
 - ・ 「新型コロナウイルスによる消費低迷」(ホテル・旅行業)
 - ・ 「取引先メーカーの生産減による設備投資の減少」(製造業)

など

3.2.3. 令和2年下半期(7～12月期)の销售价格見通し(質問9)

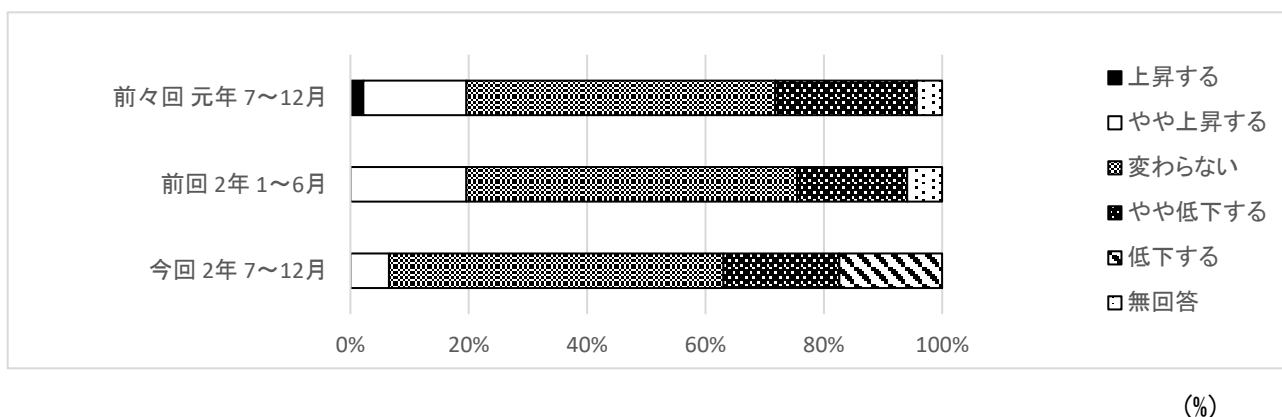
销售价格見通しについて、令和2年下半期(7～12月期)は上半期と比べ、「上昇する」0.0%、「やや上昇する」6.5%、「変わらない」56.5%、「やや低下する」19.6%、「低下する」17.4%となった(図表3-12, 3-13)。前回、前々回と比べ「低下する」の割合が大きく上昇し、「やや上昇する」の割合が大きく低下した。前回調査(令和元年12月)と比べ、

- ・ 3%ポイント以上増加: 「低下する」(+17.4)
- ・ 3%ポイント以上減少: 「やや上昇する」(-13.1)

となった。DIで見ると38.0%と、横ばいだった前回(50.3%)、前々回(49.5%)から急低下し、2期ぶりに50%を下回った。

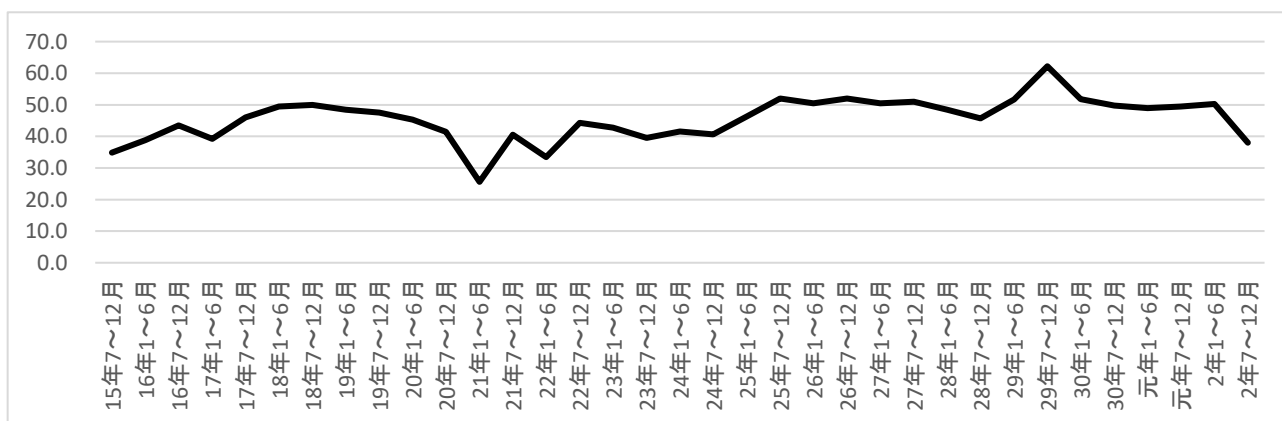
質問9: 令和2年下半期(7～12月期)の销售价格見通し

図表 3-12 回答の割合とDI(前回、前々回との比較を含む)



見通しの対象時期	上昇する	やや上昇する	変わらない	やや低下する	低下する	無回答	DI
今回 2年 7～12月	0.0	6.5	56.5	19.6	17.4	0.0	38.0
前回 2年 1～6月	0.0	19.6	55.9	18.6	0.0	5.9	50.3
前々回 元年 7～12月	2.2	17.4	52.2	23.9	0.0	4.3	49.5

図表 3-13 DIの推移(%)



3.2.4. 令和2年下半期(7～12月期)の雇用見通し(質問10)

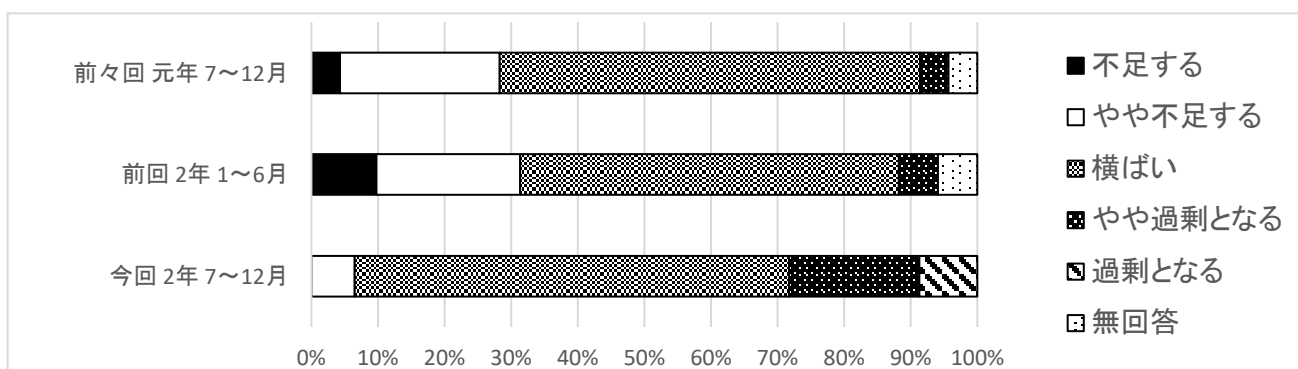
質問10の雇用見通しに関して、令和2年下半期(7～12月期)は上半期と比べ、「不足する」0.0%、「やや不足する」6.5%、「横ばい」65.2%、「やや過剰となる」19.6%、「過剰となる」8.7%となった(図表3-14、3-15)。前回、前々回と比べ「横ばい」、「やや過剰となる」、「過剰となる」の割合が上昇し、「不足する」、「やや不足する」の割合が低下した。特に、「やや過剰となる」、「やや不足する」の割合は大きく変化した。前回調査(令和元年12月)と比べ、

- ・ 3%ポイント以上増加: 「横ばい」(+8.3)、「やや過剰となる」(+13.7)、「過剰となる」(+8.7)
- ・ 3%ポイント以上減少: 「不足する」(-9.8)、「やや不足する」(-15.1)

となった。DIで見ると42.4%と、横ばいだった前回(59.4%)、前々回(57.3%)から急低下し、平成25年上半期の48.9%以来、15期ぶりに50%を下回った。

質問10: 令和2年下半期(7～12月期)の雇用見通し

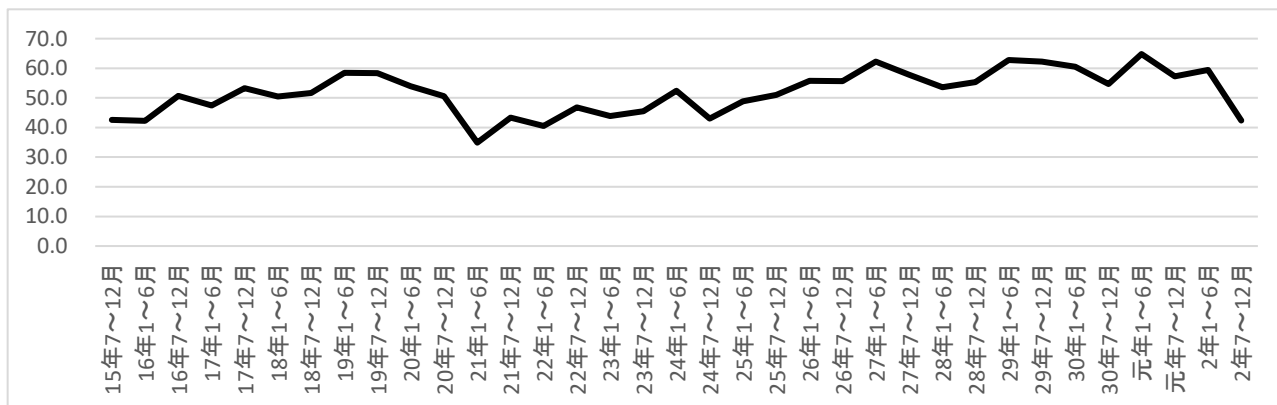
図表 3-14 回答の割合とDI(前回、前々回との比較を含む)



(%)

見通しの対象時期	不足する	やや不足する	横ばい	やや過剰となる	過剰となる	無回答	DI
今回 2年 7～12月	0.0	6.5	65.2	19.6	8.7	0.0	42.4
前回 2年 1～6月	9.8	21.6	56.9	5.9	0.0	5.9	59.4
前々回 元年 7～12月	4.3	23.9	63.0	4.3	0.0	4.3	57.3

図表 3-15 DIの推移(%)



3.2.5. 令和2年上半期(1～6月期)の資金繰りの状況(質問11, 12)

質問11の資金繰りの状況に関して、令和2年上半期(1～6月期)は、「改善した」8.7%、「やや改善した」8.7%、「どちらともいえない」26.1%、「やや悪化した」39.1%、「悪化した」13.0%となった(図表3-16, 3-17)。前回、前々回と比べ「やや悪化した」、「悪化した」の割合が上昇し、「どちらともいえない」の割合が低下した。特に、「どちらともいえない」、「やや悪化した」の割合は大きく変化した。前回調査(令和元年12月)と比べ、

- ・ 3%ポイント以上増加: 「改善した」(+6.7)、「やや改善した」(+4.8)、「やや悪化した」(+27.3)、悪化した(+9.1)

- ・ 3%ポイント以上減少: 「どちらともいえない」(-48.4)

となった。DIで見ると39.8%と、前回(47.0%)、前々回(52.2%)から低下傾向が続き、50%を下回った。

質問11の回答の理由(質問12)についてみると、「売上高の変化」(52.2%)、「その他」(19.6%)、「仕入れ価格、原材料・燃料価格の変化」(10.9%)が上位三位までの理由だった(図表3-18)。「その他」のうち、資金繰りが悪化した理由は、やはり新型コロナウイルス感染症の流行によるものが挙げられており、資金繰りが改善した理由は、感染症流行の対策である政府の緊急融資や納税猶予といったものが挙げられていた。前回調査(令和元年12月)と比べ、

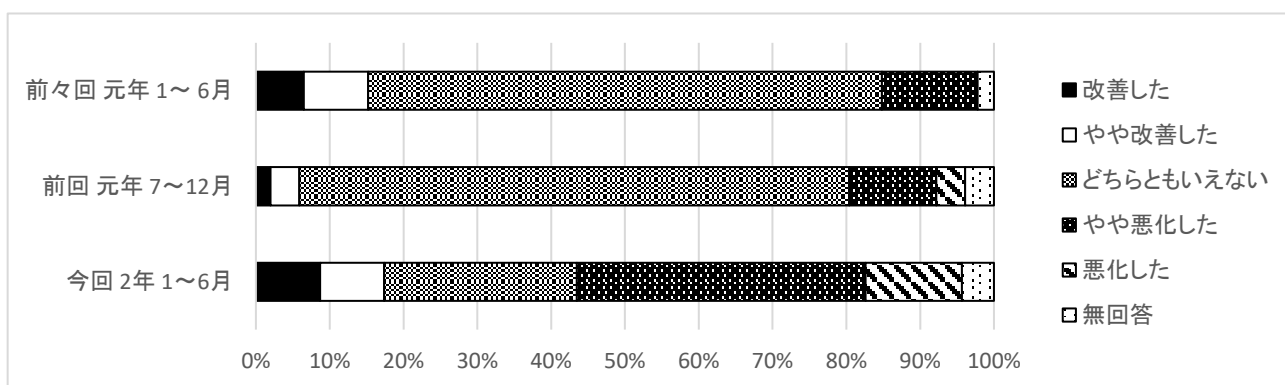
- ・ 3%ポイント以上増加: 「金融政策、金利の変化」(+8.7%)、「その他」(+7.8%)

- ・ 3%ポイント以上減少: 「仕入れ価格、原材料・燃料価格の変化」(-4.8%)、「無回答」(-3.1%)

となった。

質問11: 令和2年上半期(1～6月期)の資金繰りの状況

図表 3-16 回答の割合とDI(前回、前々回との比較を含む)

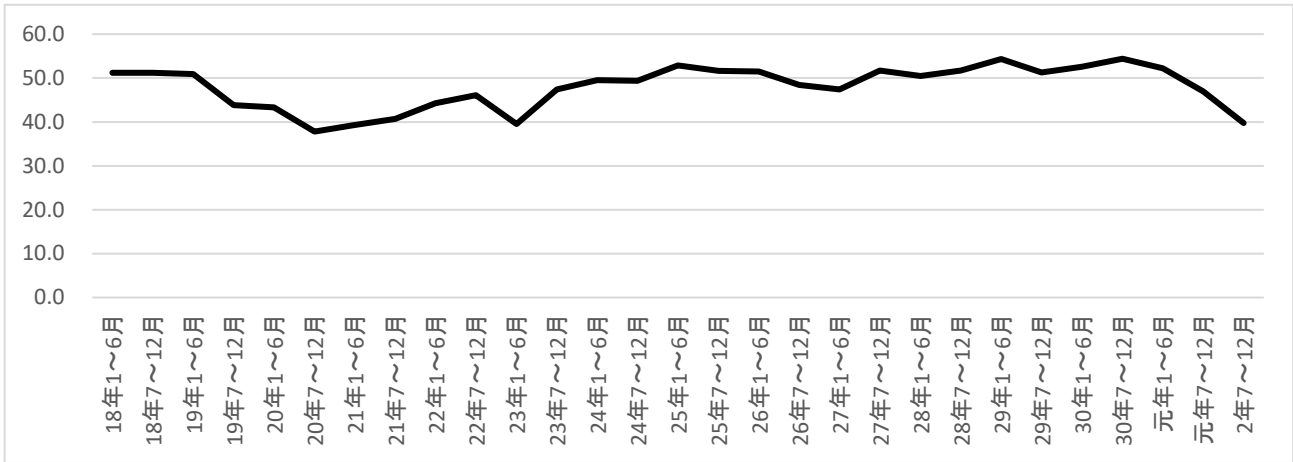


(%)

	改善した	やや改善した	どちらともいえない	やや悪化した	悪化した	無回答	DI
今回 2年 1～6月	8.7	8.7	26.1	39.1	13.0	4.3	39.8
前回 元年 7～12月	2.0	3.9	74.5	11.8	3.9	3.9	47.0
前々回 元年 1～6月	6.5	8.7	69.6	13.0	0.0	2.2	52.2

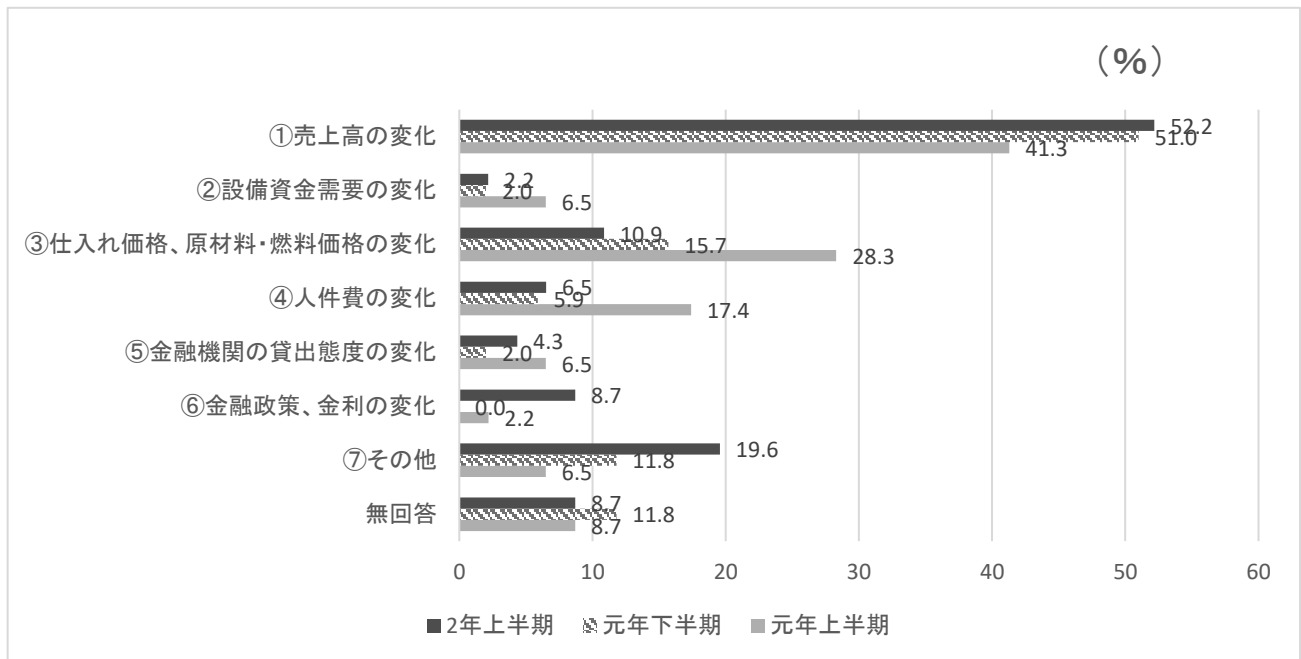
(注) 複数選択した回答は無回答に分類した。

図表 3-17 DI の推移(%)



質問 12: 質問 11 の回答理由

図表 3-18 回答の割合(前回、前々回との比較を含む)



質問 12	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	無回答
質問 11								
改善した	0.0	0.0	2.2	0.0	2.2	2.2	4.3	0.0
やや改善した	2.2	0.0	0.0	0.0	2.2	0.0	2.2	2.2
どちらともいえない	10.9	2.2	4.3	2.2	0.0	6.5	4.3	4.3
やや悪化した	28.3	0.0	4.3	2.2	0.0	0.0	6.5	0.0
悪化した	8.7	0.0	0.0	2.2	0.0	0.0	2.2	0.0
無回答	2.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.2
合計	52.2	2.2	10.9	6.5	4.3	8.7	19.6	8.7

46 社に対する比率%。複数回答可のため合計は 100%にならない。

3.2.6. 令和2年度の賃金等の状況(質問 13, 14)

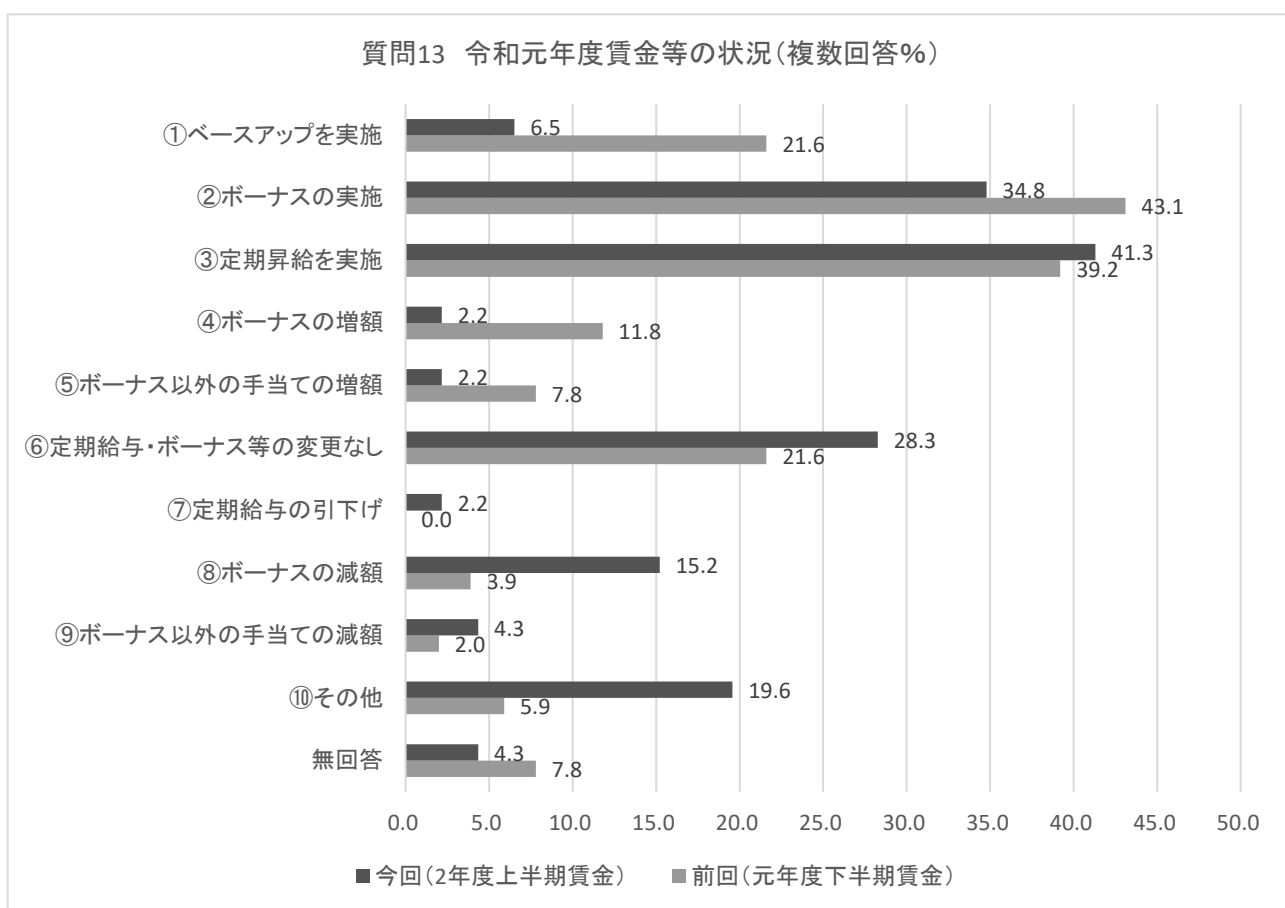
前回調査(令和元年12月)と比べ、

- ・ 3%ポイント以上増加: 「定期給与・ボーナス等の変更なし」(+6.7%)、「ボーナスの減額」(+11.3%)、「その他」(+13.7%)
- ・ 3%ポイント以上減少: 「ベースアップを実施」(-15.1%)、「ボーナスの実施」(-8.3%)、「ボーナスの増額」(-9.6%)、「ボーナス以外の手当の増額」(-5.6%)、「無回答」(-3.5%)

となった(図表 3-19)。「その他」の理由として、雇用調整助成金の申請をして従業員を休業させていることなどが挙げられていた。

質問 13: 令和2年度の賃金等の状況

図表 3-19 回答の割合(前期との比較を含む)



質問 14: 質問 13 の回答理由

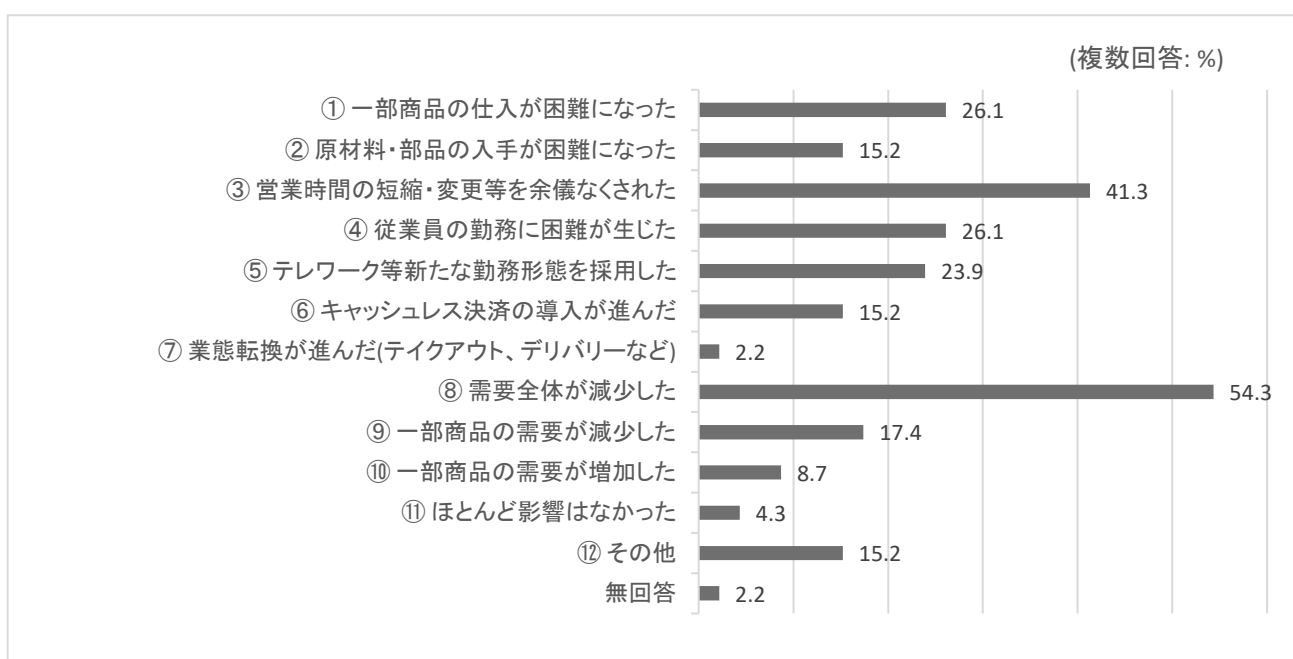
- ◆ ①ベースアップを実施、③定期昇給を実施
 - ・ 「前期実績により」
- ◆ ②ボーナスの実施、③定期昇給を実施
 - ・ 「人員確保、モチベーション維持」
- ◆ ②ボーナスの実施、⑧ボーナスの減額
 - ・ 「コロナの為、売上げが落ちている。給与はそのままだが、ボーナスは減額を予定している。」
- ◆ ②ボーナスの実施、⑨ボーナス以外の手当ての減額
 - ・ 「早出手当て、残業がなくなったが、ボーナスは前年並、銀行からの手当て増。」
- ◆ ⑥定期給与・ボーナス等の変更なし
 - ・ 「売上は落ちたが、まだ余剰資金があるので給与ボーナスは変更なし」
- ◆ ⑧ボーナスの減額
 - ・ 「売上が半減し、従業員の給与を確保するため、金融機関より融資を受けている。」
など

3.3. 昨今の社会・経済情勢に関する質問

質問 15 では新型コロナウイルス感染症の流行とその後の非常事態宣言の影響についてたずねた。その結果(複数回答可)をみると、「需要全体が減少した」(54.3%)、「営業時間の短縮・変更等を余儀なくされた」(41.3%)、「一部商品の仕入が困難になった」(26.1%)、「従業員の勤務に困難が生じた」(26.1%)、「テレワーク等新たな勤務形態を採用した」(23.9%)などとなった(図表 3-20)。

質問 15: 新型コロナウイルス感染症の流行とその後の非常事態宣言の影響

図表 3-20 回答の割合



(注) 46社に対する比率。複数回答があり、合計は100%にならない。

4. まとめ

最近の日本経済の動きを GDP 速報(2 次速報)でみると、令和元年(暦年)の実質 GDP 成長率(平成 23 年暦年連鎖価格)は前年比 0.0%と、前年平成 30 年(0.3%)に比べ下落した。一方、四半期別(季節調整済、前期比)でみると、令和元年 7~9 月 0.0%、10~12 月 1.8%減、2 年 1 月~3 月 0.6%減、4~6 月 7.9%減と 10~12 月以降の 3 期連続のマイナス成長となった。この傾向は、令和元年 10 月に消費税を 10%に引き上げた令和元年 10~12 月から始まり、令和 2 年に入ってからの新型コロナウイルス感染症の流行に伴う社会・経済の混乱がそれに追い打ちをかけることになった。特に、感染症流行の影響が顕在化された 2 年 4~6 月期では、年率換算の実質値で 28.1%減となり、戦後最大の落ち込みとなった。新型コロナウイルス感染症の流行拡大により個人や企業の経済活動が制限され、実際、GDP 速報でも、4~6 月の民間最終消費支出は 7.9%減、民間企業設備は 6.2%減と大きく落ち込みがみられた。

こうした状況のなか令和 2 年 6 月から 7 月にかけて実施した「小山市景気動向アンケート調査(令和 2 年度第 1 回)」の結果は、世界経済、日本経済の混乱をうけ、いくつかの項目では、本調査開始以来、最低水準を記録する、リーマン・ショック期の平成 20 年上半期、下半期の水準に並ぶといった、非常に厳しい景況感が表れたものとなった。本調査でも、新型コロナウイルス感染症の流行に伴う経済への負の影響を要因とする意見が数多くみられた。今回のアンケート調査で追加した「新型コロナウイルス感染症の流行とその後の非常事態宣言の影響」と合わせて、既存の質問項目での回答を振り返ると、現状での全般的な小山市の景気や、小山市の業界の景気は、人々の移動・行動が制限されたことによって、需要が全般的に大きく落ちこんでしまったこと、営業時間の短縮、商品の仕入や従業員の勤務が困難になるといった供給面への影響が観察された。一方で、先行きについては、現状を最悪期とみて回復を期待する予測と、依然として厳しい状況が続く予測に分かれた。しかし、例えば、雇用見通しでは、DI が平成 25 年上半期の 48.9%以来、15 期ぶりに 50%を下回ったことから分かるように、全般的に厳しい見通しであると言わざるを得ないだろう。

以上のように、令和 2 年上半期(1~6 月期)の小山市の景況感をみると、現状は本調査開始以来、最悪期であったリーマン・ショック時に並ぶものであり、先行きについても前回、前々回調査と同程度か、それらを下回るものとなった。今回の調査の背景を語るうえで、新型コロナウイルス感染症の流行への言及を避けることはできない。政府による緊急事態宣言の発出もあり、人々の移動・行動が制限されたことは、様々な面で経済へ負の影響を与えることとなった。他方、中国では、実質 GDP 成長率が 1~3 月期に 6.8%減だったものの、感染の収束傾向がみられた 4~6 月期には 3.2%増に転じた。このことから、感染の収束により経済の回復を見込むことができる。しかし、感染再拡大の懸念も依然として残されており、今後の回復は感染症の流行次第となるため、継続してその推移を注視する必要があるだろう。政府の効果的な経済対策を期待したいが、8 月 28 日、安倍晋三首相の辞意表明により憲政史上最長の政権が終焉を迎え、11 月にはアメリカ大統領選挙を控えるなど、今後、国内外で政治的な転換点を迎えることになる。前回までの調査で注目されていた、令和元年 10 月に引き上げられた消費税の影響、米中貿易摩擦の行方とその影響も引き続き見守る必要があるだろう。

(参考資料)

i. 小山市景気動向アンケート調査票(令和2年度第1回)

小山市景気動向アンケート調査 調査票 (令和2年度第1回)

(2020年6月現在の状況でお答え下さい。4ページ目までご記入のほどよろしくお願い申し上げます。)

質問1 現在の小山市の景気についての質問です。あなたの日々の仕事やお客様の様子からみて2020年上半期(1~6月期)の景気は良いと思いますか、悪いと思いますか。(水準)

- ① 良い ② やや良い ③ どちらともいえない ④ やや悪い ⑤ 悪い

質問2-1 質問1のご回答の理由として、どのような点に着目されましたか。もっとも適当と思われるものを一つ選んでください。「⑥それ以外」の場合は、その理由を()内に記入して下さい。

- ① 小山市の人出の状況 ② お客様や取引先の様子(購買態度など)
③ 物価の動き ④ 雇用の状況 ⑤ 周辺地域の様子
⑥ それ以外()

質問2-2 質問2-1の回答内容について具体的に説明してください。

質問3 小山市の景気の先行きについての質問です。あなたの日々の仕事やお客様の様子からみて、2020年下半年期(7~12月期)の景気は、2020年上半期(1~6月期)と比べて良くなると思いますか、悪くなると思いますか。(将来の方向)

- ① 良くなる ② やや良くなる ③ 変わらない ④ やや悪くなる ⑤ 悪くなる

質問4 質問3でそのように回答した理由を教えてください。

質問5 貴店(貴社)の売上げ等からみて、貴業界の小山市における2020年上半期(1~6月期)の需要は季節的な要因を除いて、2019年下半年期(7~12月期)にくらべて売上金額で増加したと思いますか。

- ① 増加した ② やや増加した ③ 変わらない ④ やや減少した ⑤ 減少した

質問 6-1 質問 5 でそのように回答された理由として、もっとも適当と思われるものを一つ選んでください。

(家計消費向け取引の場合)

- ① 来客数の動き ② 販売量の動き ③ 客単価の動き ④ 販売価格の動き
⑤ お客様の様子 ⑥ 競争相手の様子 ⑦ それ以外 ()

(企業向け取引の場合)

- ① 受注量や販売量の動き ② 受注価格や販売価格の動き ③ 取引先の様子
④ 競争相手の様子 ⑤ それ以外 ()

質問 6-2 質問 6-1 の回答内容について具体的に説明してください。

質問 7 貴店(貴社)の売上げの動き等からみて、貴業界の小山市における 2020 年下半期(7~12 月期)の売上高(生産高)の見通しをお伺いします。2020 年上半期(1~6 月期)と比べて、季節的要因を除いて、2020 年下半期(7~12 月期)の売上高(生産高)は増加すると思いますか。

(売上高の先行き)

- ① 増加する ② やや増加する ③ 変わらない ④ やや減少する ⑤ 減少する

質問 8 質問 7 でそのように回答した理由を教えてください。

質問 9 貴店(貴社)の販売価格の動き等からみて、貴業界の小山市における 2020 年下半期(7~12 月期)の販売価格の見通しをお伺いします。2020 年上半期(1~6 月期)と比べて、2020 年下半期(7~12 月期)の販売価格はどうなると思いますか。(価格見通し)

- ① 上昇する ② やや上昇する ③ 変わらない ④ やや低下する ⑤ 低下する

質問 10 貴店(貴社)の雇用(従業員)の状況等からみて、貴業界の小山市における 2020 年下半期(7~12 月期)の雇用状況の見通しをお伺いします。2020 年上半期(1~6 月期)と比べて、2020 年下半期(7~12 月期)の雇用状況はどうなると思いますか。(雇用見通し)

従業員が

- ① 不足する ② やや不足する ③ 横ばい ④ やや過剰となる ⑤ 過剰となる

質問 11 貴店（貴社）あるいは貴業界における資金繰りの状況をお伺いします。貴店（貴社）の2020年上半期（1～6月期）における資金繰りは、2019年下半期（7～12月期）にくらべて改善しましたか、悪化しましたか。

- ①改善した ②やや改善した ③どちらともいえない。 ④やや悪化した ⑤悪化した

質問 12 質問 11 でそのように回答した理由をあげて下さい。（複数回答可）

- ① 売上高の変化 ②設備資金需要の変化 ③仕入れ価格、原材料・燃料価格の変化
④人件費の変化 ⑤金融機関の貸出態度の変化 ⑥ 金融政策、金利の変化
⑦その他（具体的に、)

質問 13 貴店（貴社）における令和2年度の主な従業員の賃金等の状況をお伺いします。（あてはまるものすべてに○をつけてください、複数回答可）

- ①ベースアップを実施 ②ボーナスの実施 ③定期昇給を実施 ④ボーナスの増額
⑤ボーナス以外の手当の増額 ⑥定期給与・ボーナス等の変更なし ⑦定期給与の引下げ
⑧ボーナスの減額 ⑨ボーナス以外の手当の減額
⑩その他（)

質問 14 質問 13 でそのように回答した具体的内容・理由を記入して下さい。

質問 15 新型コロナウイルス感染症の流行とその後の非常事態宣言等で貴社（貴店）、貴業界はどのような影響を受けましたか。（あてはまるものすべてに○をつけてください、複数回答可）

- ① 一部商品の仕入が困難になった ② 原材料・部品の入手が困難になった
③ 営業時間の短縮・変更等を余儀なくされた ④ 従業員の勤務に困難が生じた
⑤ テレワーク等新たな勤務形態を採用した ⑥ キャッシュレス決済の導入が進んだ
⑦ 業態転換が進んだ(テイクアウト、デリバリーなど) ⑧ 需要全体が減少した
⑨ 一部商品の需要が減少した ⑩ 一部商品の需要が増加した
⑪ ほとんど影響はなかった
⑫ その他(具体的に:
)

[フェースシート]

小山市経済動向実態調査以外の目的には一切使用いたしませんので、下記の項目にご記入いただきますようお願い申し上げます。

1. 貴店(貴社)のお名前

2. 貴店(貴社)の業種(小山市にある事業所(店舗)で取り扱っている業種)

3. 貴店(貴社)の従業者数 (小山市の事業所(店舗)における従業者)

4. 貴店(貴社)の年間売上げ (小山市の事業所(店舗)における売上げ(概数で結構です))

5. 貴店(貴社)の小山市の店舗 (事業所)における売上げのうち、小山市内の企業、消費者からの需要の割合はおよそどのくらいですか。一つ選んで○をつけてください。

①80～100% ②60～80% ③40～60% ④20～40% ⑤0～20%

6. 来年度以降、当アンケートはインターネットを用いたオンラインでの実施を検討しています。このことについて、ご意見をお聞かせください。以下の選択肢から一つ選んで○をつけてください。

- ① オンラインで実施することが望ましい ② 紙のアンケートのままのほうが望ましい
③ その他(具体的に: _____)

7. 調査の回答に関する連絡先

ご担当者名:

ご住所:

電話番号:

E-mail:

(お忙しいところご協力どうもありがとうございました。ご回答いただきました方には、次回調査時に今回の調査結果とともに、些少なながらクオカード (1000 円) をお送りいたします。)

「小山市経済動向実態調査」

委託元 小山市経済部商業観光課

調査受託 白鷗大学ビジネス開発研究所

電話 : 0285-22-1111(大学・代表)

0285-20-8125(研究所)

Fax : 0285-22-8157

調査担当 (西谷、八尾、櫻庭)

ii. 小山市景気動向アンケート調査(令和2年度第1回)の回答一覧

選択回答 質問1～7 (企業番号1～23)

No.	質問1	質問2	質問3	質問5	質問6		質問7
					家計	企業	
1	4	1	3	3	-	1	3
2	5	2	4	5	-	-	4
3	4	5	3	3	2	3	3
4	5	6	3	1	7	-	1
5	5	6	5	5	7	5	5
6	5	6	5	5	-	1	5
7	5	6	3	4	-	1	4
8	4	1	1	3	-	1	2
9	3	5	5	5	-	1	5
10	5	2	3	2	-	1	3
11	5	2	4	5	1	-	5
12	5	2	2	5	1	-	5
13	4	2	3	3	2	-	3
14	5	1	5	5	1	-	5
15	4	2	5	4	-	1	4
16	5	6	1	2	7	-	3
17	5	2	5	5	5	1	5
18	5	2	5	5	2	1	5
19	5	1	3	4	2	1	3
20	5	6	4	5	7	5	5
21	5	2	2	5	0	3	0
22	5	2	3	5	1	-	3
23	5	6	3	4	-	1	3

選択回答 質問 1～7 (企業番号 24～46)

No.	質問 1	質問 2	質問 3	質問 5	質問 6		質問 7
					家計	企業	
24	5	6	2	5	5	-	2
25	4	5	2	4	1	-	4
26	5	2	2	5	1	1	2
27	4	2,4	3	4	-	1	3
28	3	1	3	4	-	1	4
29	5	1	2	5	2	1	2
30	4	2	3	4	5	3	3
31	5	2	2	2	-	5	3
32	5	6	2	5	2	-	2
33	5	2	-	3	-	1	5
34	5	6	4	4	1,2	1	3
35	4	1,2	3	5	2	1	2
36	5	6	4	5	7	-	5
37	5	2	5	4	-	3	5
38	5	6	2	5	1	-	2
39	5	6	1	4	1	4	2
40	5	2	2	5	-	1	3,4,5
41	3	6	4	4	-	1	5
42	4	1,2,5,6	5	4	5,6	1	5
43	4	5	4	4	1	-	4
44	4	2	-	4	3	1	4
45	4	2	2	2	2	-	3
46	5	6	4	5	7	-	4

選択回答 質問 9～15 (企業番号 1～23)

No.	質問 9	質問 10	質問 11	質問 12	質問 13	質問 15
1	3	3	3	1,3,4	3,6	1,2,5,9
2	5	5	-	-	-	-
3	4	3	4	1,3	6	11
4	3	3	1	7	2,3	1,12
5	5	4	5	7	6	8
6	5	3	5	4	10	12
7	3	3	4	12	2,3	2,8
8	3	3	1	5	2,3	1,5,10
9	4	2	4	4	2,3	8
10	3	3	3	1,3	1,3,4	11
11	5	2	1	3	-	1,3
12	5	4	3	6	2,3	1,2,3,4,5,6,8,9
13	3	4	4	1	6	2,8
14	5	3	2	5	2,9	6,8
15	3	4	4	1	3,8	3
16	4	4	2	7	10	3,5
17	4	5	5	1	10	3,8
18	5	5	4	1	6	3,7,8
19	3	3	4	3	6	2,6,8
20	4	5	4	7	7,9,10	8,12
21	3	3	3	1	2,3	3,4,5,8
22	3	3	5	1	8	3,4,8
23	3	3	4	7	2,8	8,12

選択回答 質問 9～15 (企業番号 24～46)

No.	質問 9	質問 10	質問 11	質問 12	質問 13	質問 15
24	3	3	4	1	10	3,5
25	4	3	4	1	5,10	2,3,4,6
26	2	2	4	1	6	1,3,4,9
27	3	3	4	1	10	8
28	3	4	4	1	3	9
29	2	3	5	1	8	3,4,8
30	3	3	5	1	2,3	8
31	3	3	3	6	2,6	3,4,5,6,10
32	2	3	4	1	10	8
33	3	3	3	2	1,2,3	9
34	3	3	4	1	6	12
35	3	3	3	1	3	1,8
36	4	3	3	7	6	3,4,6,8
37	3	3	3	7	2,3	8
38	3	3	4	1	8	1,3,8
39	3	3	2	1	2,3,6	1,3,4,5,8
40	4	4	1	6,7	8,10	12
41	3	3	3	-	2,3	2,4,9
42	5	4	2	-	3,6	1,6,8
43	3	3	3	-	6	1,4,8
44	4	3	-	1	1,3	3,5,12
45	3	3	3	1,6	2,8	1,3,5,9,10
46	3	4	4	7	2,3	3,4,5,8,9,10

記述回答 質問 1、2

No.	質問 1	質問 2-1	質問 2-1 選択肢 6 の回答	質問 2-2
1	4	1		新型コロナウイルスの影響による
2	5	2	コロナ等による客の減少	上記等による客の減少
3	4	5		
4	5	6	新型コロナウイルスの感染拡大により	新型コロナウイルスの感染拡大による自粛により人の動きがなくなったこと。
5	5	6	新型コロナ	
6	5	6	コロナウイルスによる	世界的な人の動向の規制のため
7	5	6	新型コロナウイルス感染症の状況	産業は業種を問わず何らかの影響があり、特に非常事態宣言等による人の行き来が制限されたことによるものが大きいと感じる。
8	4	1		コロナウイルス自粛の為 6 月中旬迄の出入が極めて少なかった。
9	3	5	コロナウイルスにより	
10	5	2		新型コロナウイルスの影響
11	5	2		コロナ自粛ムードの影響で、購買意欲にも悪影響(低下)
12	5	2		自粛ムードによる社会・経済活動の停滞
13	4	2		
14	5	1		いつもの閑散がよりひどい。コロナにおびえてステイホーム。
15	4	2		
16	5	6	コロナウイルス感染症の影響	コロナウイルス感染症の影響から、人の動きが鈍くなっている。巣籠り消費は堅調な一方で、自粛が常態化し、消費者の購買意欲は低下した。
17	5	2		新型コロナウイルスによる活動自粛
18	5	2		新型コロナウイルスの影響と思われます。
19	5	1		人出がなかった
20	5	6	コロナで最悪	得意先の飲食店がコロナの影響で休業、3月から6月は半分以下
21	5	2		コロナ禍の影響が大
22	5	2		コロナウイルスの影響

23	5	6	コロナの件があった為、 昨年10月からの増税	昨年10月からの消費税増税に伴い、売り上げが減少、これらの動きが落ち着いてきたところでコロナ、緊急事態宣言により消費の流れがストップ。売り上げのさらなる減少。
24	5	6	新型コロナの影響	
25	4	5		人が歩いていない
26	5	2		コロナのせいで来店客が減少したため
27	4	2,4		コロナの影響が大きい
28	3	1		
29	5	1		新型コロナウイルスの影響により市内のイベントがすべて中止となった。3密を避けるためテイクアウト・デリバリーなど人の外出が減少した。
30	4	2		節約傾向にある
31	5	2		財務内容(特に対前年売上)が急激に悪化している先が目立つ。
32	5	6	行事がすべて中止か延期の為	市内マラソン大会、野球大会、空手大会、各種発表会、文化活動の中止、ソフトボール大会、水泳競技会・他
33	5	2		コロナの影響
34	5	6	コロナウイルスの影響	3,4月コロナウイルスの自粛によって、お客様の購買意欲が落ちているのではないかと思います
35	4	1,2		新型コロナウイルスの影響により、市内の人出や取引先の販売量に減少が見られたため。
36	5	6	コロナ禍	コロナ禍による自粛、ステイホーム
37	5	2		予算の取ってある工事以外は延期または中止
38	5	6	コロナの影響	昨年の増税後の影響後、1月末から新型コロナの影響で大きく客数減
39	5	6	コロナウイルスの影響	コロナウイルスの影響で経済が停滞している。所得が下がっている人も多く、消費が減少している。
40	5	2		新型コロナウイルスの影響で飲食や販売店などへの訪問が激減しているよう。市内

				の交通量も4月5月上旬よりは増えてきているが、まだまだ少ないと思う。
41	3	6	コロナの影響	先行不透明
42	4	1,2,5,6	コロナの影響	コロナの影響により過去にはない状況となっています。来店者が激減
43	4	5		コロナウイルスのため人通りがない
44	4	2		4月頃までは前年並みかあるいは若干営業実績はよかった。5月に入り局面が変わった。客足は悪くなるが高額なものが減り、単価減が見られる。
45	4	2		売上減少
46	5	6	新型コロナウイルス	外出自粛、新たな生活様式に伴う消費の変化

記述回答 質問 3、4

No.	質問 3	質問 4
1	3	新型コロナウイルスの影響はもうしばらくは続くと思われる
2	4	
3	3	
4	3	新型コロナウイルスの問題については第二波・第三波の心配もあり、景気回復は難しいと思われる。
5	5	
6	5	経済の低下とアフターコロナの発生
7	3	新型コロナウイルス感染症第2波・第3波の懸念が残り、消費拡大の見込みが薄いため。
8	1	自粛解除の影響
9	5	2-2と同様
10	3	
11	4	コロナの影響の先行き不安
12	2	自粛要請などの制限の緩和
13	3	
14	5	テレビの報道が激しく、回復はながびきそう。
15	5	コロナの影響が大
16	1	自粛解除や給付金の交付により、消費意欲は徐々に改善するものと思われる。
17	5	新型コロナウイルスによる消費低迷
18	5	同質問 2-2と同じ
19	3	第二波が来るのではないだろうか
20	4	まだコロナ騒動は長引く
21	2	コロナの収束を多少でも期待(したい)
22	3	第二波の懸念
23	3	コロナ次第と思われる
24	2	最悪期は脱したのでは、との見込みから
25	2	希望的
26	2	コロナの状況次第ですが、良くなってくると思います。
27	3	質問 2-1と同様
28	3	
29	2	非常事態宣言が解除となり人の外出が増えてきた。
30	3	コロナ第2波が来ると良くなれないと思われる。
31	2	上半期があまりに悪すぎた。
32	2	延期された大会が行われると思います。
33	-	コロナの影響

34	4	コロナウイルスの影響で収入などが不安定なのではないかと思う。
35	3	非常事態宣言が解除されても、慎重に行動する人が多いのではないかとと思われるため。
36	4	
37	5	景気の回復は製造業の場合は遅れてくる。コロナの影響が収まってもその後しばらくは回復しない。
38	2	2020年上半期に続きコロナの影響は続くと思われるが、やや持ち直ししている
39	1	コロナウイルスの影響が落ち着き、所得回復、消費増加が見込める
40	2	5月中旬以降少しづつ交通量や店舗営業(時間も)が復活している気がする。
41	4	コロナの影響
42	5	大口工事やリフォームは以前に注文があったので、売り上げはそれほど落ちていませんが、以降は予定がなく不安感な気持ちです。
43	4	
44	-	コロナ第2波がくるのか、どのタイミングになるのか？小山市だけでなくグローバルな動きと連動する為、国内状況だけでは判断できなくなる。
45	2	新型コロナの終息
46	4	同上

記述回答 質問 5、6

No.	質問 5	質問 6-1		質問 6-1 その他の回答	質問 6-2
		家計	企業		
1	3	-	1		仕事量に変化がない
2	5	-	-		
3	3	2	3		
4	1	7	-	事業エリア拡張により	野木町を事業エリアとしたことにより顧客の増加
5	5	7	5	新型コロナ影響	
6	5	-	1		人の動向が大減少のため
7	4	-	1		
8	3	-	1		取引相手の業種による
9	5	-	1		前期比△10%以上減少
10	2	-	1		
11	5	1	-		店舗販売よりもネット販売に移行
12	5	1	-		新規来店数の減少
13	3	2	-		
14	5	1	-		お客様の来店頻度の減少
15	4	-	1		コロナの為、営業がストップしたのが痛いと思う。
16	2	7	-	コロナウイルス感染症の影響	(金融機関のため)コロナウイルス感染症対策として、事前に手持ち資金を厚くすべく運転資金を借入する事業者が多かった。
17	5	5	1		飲食の自粛
18	5	2	1		同質問 2-2 と同じ
19	4	2	1		集まって行う事、イベントなどができなかったため
20	5	7	5	コロナ騒動	6月下旬からは少しずつ戻りつつ、しかし完全に戻るにはコロナの終息状況にもあるが、1年位かかると思う。
21	5	-	3		質問 2-2 に同じ
22	5	1	-	コロナの影響	
23	4	-	1	コロナの為	
24	5	5	-		
25	4	1	-		

26	5	1	1		コロナのせいで来店客が減少したため
27	4	-	1		コロナの影響による受注減
28	4	-	1	コロナで	
29	5	2	1		昼については病院への通院の制限による減少・イベントの中止。夜については飲食店休業・営業時間の短縮、冠婚葬祭の中止・延期。鉄道利用者の減少。
30	4	5	3		
31	2	-	5	融資ボリューム	コロナ資金の伸びが著しい
32	5	2	-	質問2の通り	
33	3	-	1		
34	4	1,2	1		土地など探しに来店するお客様が減少している
35	5	2	1		新型コロナウイルスの影響により、取引先の受注量や販売量が大きく減少したため。
36	5	7	-	コロナ	コロナ感染対策として短縮営業を実施
37	4	-	3		5,6月の受注激減
38	5	1	-		ショッピングセンター等の密の発生する場所について控える傾向が続いた
39	4	1	4		住宅展示場の来場が減少しているから、競合他社も苦しんでいると金融機関から聞いた。
40	5	-	1		コロナ以前から製造業関連は米中摩擦や日韓貿易問題などで、低調だったが、3月以降、月を追うごとに販売量見積りとも激減している。
41	4	-	1		コロナの影響により消費者の動向が変化し、販売量が減少傾向にある。
42	4	5,6	1		
43	4	1	-		
44	4	3	1		一般ユーザーは明らかに単価減

45	2	2	-		融資取引の増加
46	5	7	-	コロナウイルス	同上

記述回答 質問 7、8

No.	質問 7	質問 8
1	3	仕事量に変化なし
2	4	コロナ等による客の減少は回復出来そうにない。
3	3	
4	1	上記理由により継続的利用料収入の増加
5	5	
6	5	再度ウイルス発生、年末のインフルエンザと混合
7	4	コロナ禍により、上半期消費低迷を受け、メーカーが生産調整を行っているため。
8	2	自粛解除による購買意欲の上昇
9	5	2-2 同様
10	3	
11	5	客足、消費動向はすぐには回復が見込めない
12	5	コロナ禍による経済・社会的影響下にあるため
13	3	
14	5	栃木県は感染者数が0が続くもおびえて自粛から抜け出せない
15	4	
16	3	コロナウイルス第2波の影響によるが、事業者はリスクに対する準備を一定の範囲で実施済。将来の不確実性が高い中での新規設備投資も手控えるものと思われる。
17	5	新型コロナウイルスによる消費低迷
18	5	同質問 2-2 と同じ
19	3	悪い状態が続いてしまうと思う
20	5	コロナの騒ぎが長引く
21	-	
22	3	コロナ
23	3	コロナ次第と思われる
24	2	普通に活動出来る様になると思われるので
25	4	顧客数の減少
26	2	コロナが落ち着いてきたため
27	3	
28	4	よくわかりませんが・・・
29	2	非常事態宣言解除により人の移動が増加するため
30	3	徐々に前のような生活に戻っているのでは
31	3	コロナの影響がいまだ残っていると考える
32	2	世の中が正常に戻れば少しは良くなると思われる

33	5	コロナの影響
34	3	
35	2	
36	5	コロナワクチンが開発されない限り、コロナ感染予防に来店回数が減少すると思うから。まだ秋から冬、コロナ第二波もありうるため。
37	5	取引先メーカーの生産減による設備投資の減少
38	2	コロナの影響からやや持ち直ししている
39	2	コロナウイルスが落ち着き、展示場への来場数が増加するから
40	3,4,5	新型コロナの影響は深刻で、今後どこまで続くか、どれだけ落ち込むか想像できないところです。
41	5	上記質問 6-2 と同様
42	5	
43	4	
44	4	価格競争により単価はさらに下がる
45	3	新型コロナが終息しても、企業の資金繰りや業況の大幅な改善は期待できない (不明)
46	4	同上

記述回答 質問 11、12

No.	質問 11	質問 12	回答 12 その他の回答
1	3	1,3,4	
2	-	-	
3	4	1,3	
4	1	7	金融機関よりの営業資金の借入により
5	5	7	
6	5	4	
7	4	1	
8	1	5	
9	4	4	2-2 同様
10	3	1,3	
11	1	3	
12	3	6	
13	4	1	
14	2	5	
15	4	1	
16	2	7	預金の増加
17	5	1	
18	4	1	
19	4	3	
20	4	7	コロナ
21	3	1	
22	5	1	
23	4	7	コロナの為
24	4	1	
25	4	1	
26	4	1	
27	4	1	
28	4	1	
29	5	1	
30	5	1	
31	3	6	
32	4	1	
33	3	2	
34	4	1	
35	3	1	

36	3	7	セーフティーネット貸付や実質無利子無担保融資、又、納税猶予等により一時的には資金繰りはしのぐことはできたが、この先が心配
37	3	7	5月GWまでの工事案件は例年通りあった
38	4	1	
39	2	1	
40	1	6,7	政府の緊急融資のおかげ
41	3	-	
42	2	-	
43	3	-	
44	-	1	
45	3	1,6	
46	4	7	

記述回答 質問 13、14

No.	質問 13	質問 13 その他の回答	質問 14
1	3,6		昨年度は業績が良かったが、今年度は昨年より悪くなる見通し
2	-		
3	6		
4	2,3		例年通り定期昇給、ボーナスを実施
5	6		
6	10	給与等人件費の増加 (売上に対する)	
7	2,3		人員確保、モチベーション維持
8	2,3		
9	2,3		2-2 同様
10	1,3,4		業績連動によるもの(昨年がよかった)
11	-		
12	2,3		定期昇給は例年通りだが、ボーナスは業績連動で実施しているため
13	6		
14	2,9		早出手当て、残業がなくなったが、ボーナスは前年並、銀行からの手当て増。
15	3,8		売上減の為
16	10	営業店のため不明	
17	10	雇用調整中	新型コロナウイルスによる活動自粛
18	6		下げることはできないと思われます。
19	6		かろうじて現状維持
20	7,9,10	雇用調整助成金を申請し、3分の1は休んでもらっている	コロナ
21	2,3		環境は良くないが、何とか継続してゆきたい。
22	8		売上高減により会社の存続が先
23	2,8		コロナの為、売り上げが落ちている。給与はそのままだが、ボーナスは減額を予定している。
24	10		
25	5,10	休業手当	コロナでの止むなき休業の為
26	6		売上は落ちたが、まだ余剰資金があるので給与ボーナスは変更なし

27	10	ボーナス支給せず	大幅売り上げの減少
28	3		
29	8		売上が半減し、従業員の給与を確保するため、金融機関より融資を受けている。
30	2,3		社員の為
31	2,6		今のところ、変化なし
32	10	個人事業主です。	
33	1,2,3		
34	6		売上高が伸びず、現状と変わらない
35	3		
36	6		従業員のモチベーション
37	2,3		コロナの影響以前に定期昇給を考えていた。(雇用確保のための措置)
38	8		業績悪化の為
39	2,3,6		ボーナスは変わらず支給。例年通りの割合で昇格している。給与・ボーナスとも例年通り。
40	8,10	定昇の停止	大幅な赤字状況でやむをえません。
41	2,3		例年通りの対応
42	3,6		資金繰りはできているので社員には現状で実施しました
43	6		
44	1,3		前期実績により
45	2,8		新型コロナによる営業時間短縮
46	2,3		新型コロナウイルスに関する各種対応の実施

記述回答 質問 15

No.	質問 15	質問 15 その他の回答
1	1,2,5,9	
2	-	
3	11	
4	1,12	
5	8	すべてが新型コロナウイルスの件で悪化。今までにないくらい、本当に苦しい状況です。お客様も影響を受けているので、動きもとても悪いです。
6	12	乗客の売上の大減少の為
7	2,8	
8	1,5,10	
9	8	
10	11	
11	1,3	
12	1,2,3,4,5,6,8,9	
13	2,8	
14	6,8	
15	3	
16	3,5	
17	3,8	
18	3,7,8	
19	2,6,8	
20	8,12	得意先の廃業や休業で売り上げは半減、この先もかなりきつい。
21	3,4,5,8	
22	3,4,8	
23	8,12	物流が減ったため、仕事が入らなくなった⇒売り上げが減少した。
24	3,5	
25	2,3,4,6	
26	1,3,4,9	
27	8	
28	9	
29	3,4,8	
30	8	
31	3,4,5,6,10	
32	8	
33	9	

34	12	家賃などの値下げの要望があり、下げたため売り上げが落ちている
35	1,8	
36	3,4,6,8	
37	8	
38	1,3,8	
39	1,3,4,5,8	
40	12	すべての営業活動、生産活動が停滞した。
41	2,4,9	
42	1,6,8	
43	1,4,8	
44	3,5,12	集客ができなくなったため、見込み客を作ることができた
45	1,3,5,9,10	
46	3,4,5,8,9,10	

iii. 小山市景気動向アンケート調査(時系列データ)

質問 1 小山市の景気の現状(水準)

				良い	やや良い	どちらとも いけない	やや悪い	悪い	無回答	DI
今回	令和 2年	1~6月		0.0	0.0	6.5	28.3	65.2	0.0	10.3
前回	元年	7~12月		0.0	11.8	35.3	45.1	5.9	2.0	38.5
前々回	元年	1~6月		2.2	10.9	47.8	37.0	0.0	2.2	44.5
第33回	平成 30年	7~12月		2.2	24.4	55.6	13.3	4.4	0.0	51.6
第32回	30年	1~6月		0.0	31.6	55.3	10.5	0.0	2.6	55.4
第31回	29年	7~12月		0.0	32.6	58.1	4.7	4.7	0.0	54.7
第30回	29年	1~6月		0.0	17.0	59.6	19.1	4.3	0.0	47.3
第29回	28年	7~12月		0.0	14.6	47.9	31.3	6.3	0.0	42.7
第28回	28年	1~6月		0.0	9.3	64.8	20.4	5.6	0.0	44.5
第27回	27年	7~12月		0.0	21.7	56.5	21.7	0.0	0.0	50.0
第26回	27年	1~6月		0.0	22.4	49.0	20.4	8.2	0.0	46.4
第25回	26年	7~12月		0.0	10.9	50.0	32.6	6.5	0.0	42.7
第24回	26年	1~6月		2.0	16.0	54.0	16.0	8.0	4.0	46.9
第23回	25年	7~12月		2.0	28.6	49.0	16.3	4.1	0.0	52.0
第22回	25年	1~6月		0.0	18.5	48.1	31.5	1.9	0.0	45.8
第21回	24年	7~12月		0.0	4.1	44.9	34.7	16.3	0.0	34.2
第20回	24年	1~6月		0.0	14.6	29.2	43.7	12.5	0.0	36.7
第19回	23年	7~12月		1.8	9.2	25.5	45.5	18.0	0.0	32.8
第18回	23年	1~6月		0.0	1.9	15.4	50.0	30.8	1.9	22.0
第17回	22年	7~12月		0.0	6.7	33.3	40.0	20.0	0.0	31.7
第16回	22年	1~6月		0.0	10.4	27.1	39.6	22.9	0.0	31.3
第15回	21年	7~12月		0.0	2.1	4.2	41.7	52.0	0.0	14.1
第14回	21年	1~6月		0.0	1.8	1.8	38.6	57.8	0.0	11.9
第13回	20年	7~12月		0.0	0.0	4.3	36.2	59.5	0.0	11.2
第12回	20年	1~6月		0.0	2.2	13.3	66.7	17.8	0.0	25.0
第11回	19年	7~12月		0.0	0.0	38.3	53.2	8.5	0.0	32.5
第10回	19年	1~6月		0.0	23.1	45.2	27.9	3.8	0.0	46.9
第9回	18年	7~12月		0.0	20.8	35.4	33.3	10.5	0.0	41.6
第8回	18年	1~6月		0.0	25.5	53.2	14.9	6.4	0.0	49.5
第7回	17年	7~12月		0.0	28.9	44.4	22.2	4.5	0.0	49.4
第6回	17年	1~6月		0.0	14.6	29.3	51.0	5.1	0.0	38.4

第5回	16年	7~12月	0.0	12.5	27.5	42.5	17.5	0.0	33.8
第4回	16年	1~6月	0.0	16.7	38.1	33.3	11.9	0.0	39.9
第3回	15年	7~12月	0.0	12.0	18.0	40.0	30.0	0.0	28.0
第2回	15年	1~6月	1.6	0.0	16.4	44.3	37.7	0.0	20.9
初回	14年	7~12月	0.0	1.2	7.4	37.0	54.4	0.0	13.9

質問3 小山市の景気の先行き(来半期見通し)

見通し対象時期				良くなる	やや良くなる	変わらない	やや悪くなる	悪くなる	無回答	DI
今回	令和	2年	7~12月	6.5	23.9	28.3	17.4	19.6	4.3	44.9
前回		2年	1~6月	0.0	15.7	56.9	25.5	0.0	2.0	47.6
前々回		元年	7~12月	2.2	10.9	54.3	28.3	2.2	2.2	45.6
第33回		元年	1~6月	0.0	31.1	57.8	11.1	0.0	0.0	55.0
第32回	平成	30年	7~12月	2.6	15.8	68.4	13.2	0.0	0.0	52.0
第31回		30年	1~6月	0.0	39.5	53.5	7.0	0.0	0.0	58.1
第30回		29年	7~12月	0.0	19.1	63.8	14.9	2.1	0.0	50.0
第29回		29年	1~6月	0.0	24.5	61.2	12.2	2.0	0.0	52.0
第28回		28年	7~12月	1.9	11.1	53.7	29.6	3.7	0.0	44.5
第27回		28年	1~6月	0.0	21.7	60.9	17.4	0.0	0.0	51.1
第26回		27年	7~12月	0.0	30.6	55.1	12.3	2.0	0.0	53.6
第25回		27年	1~6月	0.0	26.1	45.7	21.7	4.3	2.2	48.9
第24回		26年	7~12月	0.0	24.0	46.0	26.0	4.0	0.0	47.5
第23回		26年	1~6月	4.1	28.6	42.9	22.4	2.0	0.0	52.6
第22回		25年	7~12月	1.9	37.0	50.0	7.4	3.7	0.0	56.5
第21回		25年	1~6月	2.0	36.7	42.9	14.3	4.1	0.0	54.6
第20回		24年	7~12月	0.0	20.8	43.8	27.1	8.3	0.0	44.3
第19回		24年	1~6月	0.0	16.4	47.3	27.3	7.3	1.7	43.6
第18回		23年	7~12月	3.8	21.2	38.5	23.1	13.4	0.0	44.7
第17回		23年	1~6月	0.0	6.7	64.4	24.4	4.5	0.0	43.3
第16回		22年	7~12月	2.1	29.2	52.1	6.3	8.3	2.0	52.7
第15回		22年	1~6月	0.0	8.3	37.5	33.3	20.9	0.0	33.3
第14回		21年	7~12月	1.8	17.5	36.8	27.2	14.9	1.8	40.9
第13回		21年	1~6月	0.0	0.0	10.6	12.8	74.5	2.1	8.7
第12回		20年	7~12月	0.0	2.2	13.3	68.9	15.6	0.0	25.5
第11回		20年	1~6月	0.0	8.5	42.6	42.6	4.3	2.0	39.1
第10回		19年	7~12月	1.9	19.2	58.7	20.2	0.0	0.0	50.7
第9回		19年	1~6月	2.1	25.0	58.3	10.4	4.2	0.0	52.6
第8回		18年	7~12月	0.0	31.9	51.1	17.0	0.0	0.0	53.7
第7回		18年	1~6月	2.2	51.1	40.0	6.7	0.0	0.0	62.2
第6回		17年	7~12月	0.0	17.1	48.8	26.8	7.3	0.0	43.9
第5回		17年	1~6月	0.0	9.8	41.5	43.9	4.8	0.0	39.1
第4回		16年	7~12月	0.0	33.3	50.0	11.1	5.6	0.0	52.8
第3回		16年	1~6月	0.0	18.0	32.0	34.0	16.0	0.0	38.0
第2回		15年	7~12月	1.6	3.3	47.5	32.8	14.8	0.0	36.0

質問5 業界の小山市における売上 (売上金額の増減)

				増加した	やや増加	変わらない	やや減少	減少した	無回答	DI
今回	令和 2年	1~6月		2.2	8.7	10.9	32.6	45.7	0.0	22.3
前回	元年	7~12月		0.0	13.7	35.3	43.1	3.9	3.9	40.3
前々回	元年	1~6月		4.3	15.2	39.1	30.4	8.7	2.2	43.8
第33回	30年	7~12月		4.4	22.2	48.9	20.0	2.2	2.2	51.6
第32回	30年	1~6月		0.0	23.7	50.0	23.7	2.6	0.0	48.7
第31回	29年	7~12月		2.3	25.6	51.2	16.3	4.7	0.0	51.2
第30回	29年	1~6月		2.1	14.9	55.3	25.5	2.1	0.0	47.3
第29回	28年	7~12月		0.0	10.2	59.2	28.6	2.0	0.0	45.4
第28回	28年	1~6月		0.0	20.4	44.4	24.1	11.1	0.0	44.5
第27回	27年	7~12月		0.0	23.9	50.0	21.7	4.3	0.0	49.4
第26回	27年	1~6月		2.0	16.3	47.0	26.5	6.1	2.0	45.4
第25回	26年	7~12月		2.2	10.9	47.8	32.6	6.5	0.0	43.3
第24回	26年	1~6月		2.0	22.0	30.0	30.0	14.0	2.0	41.8
第23回	25年	7~12月		8.2	30.6	36.7	16.3	8.2	0.0	53.6
第22回	25年	1~6月		1.9	18.5	37.0	37.0	3.7	1.9	44.4
第21回	24年	7~12月		0.0	10.2	36.7	30.6	20.4	2.1	34.3
第20回	24年	1~6月		2.1	20.8	33.3	29.2	14.6	0.0	42.4
第19回	23年	7~12月		7.3	27.3	18.2	29.1	16.3	1.8	45.0
第18回	23年	1~6月		0.0	3.8	17.3	46.2	30.8	1.9	23.5
第17回	22年	7~12月		4.4	20.0	42.2	24.4	9.0	0.0	46.6
第16回	22年	1~6月		2.1	20.8	33.3	27.1	14.6	2.1	42.0
第15回	21年	7~12月		2.1	4.2	29.2	39.6	24.9	0.0	29.8
第14回	21年	1~6月		1.8	3.5	10.5	49.1	33.3	1.8	22.4
第13回	20年	7~12月		0.0	0.0	14.9	42.6	38.2	4.3	18.9
第12回	20年	1~6月		0.0	6.7	26.7	46.7	19.9	0.0	30.1
第11回	19年	7~12月		0.0	6.4	40.4	40.4	12.8	0.0	35.1
第10回	19年	1~6月		1.9	17.3	36.5	36.5	3.9	3.9	43.9
第9回	18年	7~12月		4.2	18.8	41.7	25.0	8.2	2.1	46.4
第8回	18年	1~6月		0.0	34.0	46.8	14.9	4.3	0.0	52.6
第7回	17年	7~12月		2.2	40.0	28.9	20.0	6.7	2.2	52.8
第6回	17年	1~6月		0.0	19.5	31.7	41.5	7.3	0.0	41.5
第5回	16年	7~12月		2.5	15.0	35.0	30.0	17.5	0.0	38.8
第4回	16年	1~6月		2.8	19.4	30.6	38.9	8.3	0.0	42.4
第3回	15年	7~12月		4.0	14.0	28.0	38.0	14.0	2.0	38.8
第2回	15年	1~6月		3.4	11.9	30.5	39.0	15.3	0.0	37.3
初回	14年	7~12月		2.5	8.6	21.0	28.4	37.0	2.5	27.2

質問 7 業界の小山市の売上高見通し(来半期の見通し)

見通し対象時期				増加した	やや増加	変わらない	やや減少	減少した	無回答	DI
今回	令和	2年	7~12月	2.2	17.4	28.3	17.4	30.4	4.3	35.2
前回		2年	1~6月	0.0	13.7	61.8	18.6	0.0	5.9	48.7
前々回		元年	7~12月	2.2	21.7	38.0	29.3	4.3	4.3	46.8
第33回		元年	1~6月	2.2	24.4	57.8	15.6	0.0	0.0	53.3
第32回	平成	30年	7~12月	5.3	15.8	63.2	15.8	0.0	0.0	52.7
第31回		30年	1~6月	0.0	30.2	53.5	14.0	2.3	0.0	52.9
第30回		29年	7~12月	0.0	10.6	66.0	19.1	4.3	0.0	45.7
第29回		29年	1~6月	0.0	18.4	61.2	18.4	2.0	0.0	49.0
第28回		28年	7~12月	5.6	22.2	44.4	22.2	5.6	0.0	50.0
第27回		28年	1~6月	0.0	17.4	50.0	28.3	2.2	0.0	45.1
第26回		27年	7~12月	0.0	18.4	55.1	24.5	2.0	0.0	47.5
第25回		27年	1~6月	0.0	23.9	43.5	23.9	6.5	2.2	47.4
第24回		26年	7~12月	2.0	18.0	44.0	28.0	6.0	2.0	45.4
第23回		26年	1~6月	2.0	26.5	44.9	16.3	10.2	0.0	48.4
第22回		25年	7~12月	1.9	33.3	48.1	9.3	5.5	1.9	54.3
第21回		25年	1~6月	2.0	32.7	34.7	18.4	10.2	2.0	49.5
第20回		24年	7~12月	0.0	16.7	39.6	27.1	14.5	2.1	39.9
第19回		24年	1~6月	0.0	18.2	50.9	23.6	7.3	0.0	45.0
第18回		23年	7~12月	3.8	13.5	40.4	28.8	11.6	1.9	42.1
第17回		23年	1~6月	4.4	15.6	57.8	17.8	4.4	0.0	49.5
第16回		22年	7~12月	0.0	27.1	47.9	10.4	10.4	4.2	48.9
第15回		22年	1~6月	0.0	10.4	39.6	31.3	18.7	0.0	35.4
第14回		21年	7~12月	1.8	17.5	31.6	35.1	12.2	1.8	40.2
第13回		21年	1~6月	0.0	2.1	14.9	19.1	59.6	4.3	14.4
第12回		20年	7~12月	0.0	4.4	24.4	53.3	17.9	0.0	28.8
第11回		20年	1~6月	0.0	10.6	44.7	38.3	6.4	0.0	39.9
第10回		19年	7~12月	1.9	23.1	57.7	13.5	0.0	3.8	53.5
第9回		19年	1~6月	2.1	29.2	39.6	16.7	6.2	6.2	51.2
第8回		18年	7~12月	2.1	21.3	59.6	10.6	4.3	2.1	51.6
第7回		18年	1~6月	0.0	35.6	42.2	13.3	4.5	4.4	53.5
第6回		17年	7~12月	0.0	22.0	51.2	26.8	0.0	0.0	48.8
第5回		17年	1~6月	2.5	17.5	27.5	40.0	10.0	2.5	40.4
第4回		16年	7~12月	0.0	19.4	58.3	13.9	2.8	5.6	50.0
第3回		16年	1~6月	2.0	18.0	34.0	30.0	12.0	4.0	41.7
第2回		15年	7~12月	0.0	10.0	43.3	31.7	15.0	0.0	37.1
初回		15年	1~6月	0.0	8.6	30.9	30.9	27.2	2.4	30.4

質問9 来半期の販売価格見通し

見通し対象時期				上昇する	やや上昇する	変わらない	やや低下する	低下する	無回答	DI
今回	令和	2年	7～12月	0.0	6.5	56.5	19.6	17.4	0.0	38.0
前回		2年	1～6月	0.0	19.6	55.9	18.6	0.0	5.9	50.3
前々回		元年	7～12月	2.2	17.4	52.2	23.9	0.0	4.3	49.5
第33回		元年	1～6月	0.0	13.3	71.1	13.3	13.3	0.0	48.9
第32回	平成	30年	7～12月	0.0	10.5	73.7	13.2	0.0	2.6	49.3
第31回		30年	1～6月	0.0	18.6	69.8	11.6	0.0	0.0	51.8
第30回		29年	7～12月	14.9	23.4	57.4	4.3	0.0	0.0	62.2
第29回		29年	1～6月	0.0	21.3	61.7	10.6	2.1	4.3	51.7
第28回		28年	7～12月	0.0	9.3	64.8	18.5	3.7	3.7	45.7
第27回		28年	1～6月	2.2	13.0	63.0	19.6	2.2	0.0	48.4
第26回		27年	7～12月	0.0	18.4	65.3	14.3	0.0	2.0	51.0
第25回		27年	1～6月	0.0	22.9	58.3	12.5	4.2	2.1	50.5
第24回		26年	7～12月	2.0	20.0	62.0	12.0	2.0	2.0	52.0
第23回		26年	1～6月	4.1	22.4	47.0	20.4	4.1	2.0	50.5
第22回		25年	7～12月	0.0	25.9	51.9	14.8	1.8	5.6	52.0
第21回		25年	1～6月	2.0	16.3	51.0	22.5	4.1	4.1	46.3
第20回		24年	7～12月	0.0	10.4	47.9	35.4	6.3	0.0	40.6
第19回		24年	1～6月	0.0	9.1	50.9	30.9	5.5	3.6	41.5
第18回		23年	7～12月	0.0	7.7	46.2	36.5	5.8	3.8	39.5
第17回		23年	1～6月	0.0	11.1	51.1	35.6	2.2	0.0	42.8
第16回		22年	7～12月	0.0	12.5	54.2	31.3	2.0	0.0	44.3
第15回		22年	1～6月	0.0	4.2	39.6	41.7	14.5	0.0	33.4
第14回		21年	7～12月	1.8	10.5	43.9	29.8	10.5	3.5	40.5
第13回		21年	1～6月	0.0	4.3	23.4	40.4	29.8	2.1	25.6
第12回		20年	7～12月	4.4	17.8	25.6	43.3	6.7	2.2	41.4
第11回		20年	1～6月	2.1	16.0	43.6	29.8	4.2	4.3	45.3
第10回		19年	7～12月	1.9	17.3	50.0	26.9	2.0	1.9	47.5
第9回		19年	1～6月	2.1	18.8	54.2	16.7	4.1	4.1	49.6
第8回		18年	7～12月	0.0	25.5	46.8	21.3	2.1	4.3	50.0
第7回		18年	1～6月	0.0	26.7	46.7	20.0	4.4	2.2	49.5
第6回		17年	7～12月	0.0	14.6	48.8	29.3	0.0	7.3	46.0
第5回		17年	1～6月	0.0	8.1	45.9	40.5	5.5	0.0	39.2
第4回		16年	7～12月	0.0	8.3	61.1	22.2	5.6	2.8	43.5
第3回		16年	1～6月	0.0	12.0	38.0	40.0	6.0	4.0	38.8
第2回		15年	7～12月	0.0	8.6	32.8	48.3	10.3	0.0	34.9

(注) 販売価格見通しは第2回から実施

質問 10 来半期の雇用見通し

見通し対象時期				不足する	やや不足	横ばい	やや過剰	過剰	無回答	DI
今回	令和	2年	7～12月	0.0	6.5	65.2	19.6	8.7	0.0	42.4
前回		2年	1～6月	9.8	21.6	56.9	5.9	0.0	5.9	59.4
前々回		元年	7～12月	4.3	23.9	63.0	4.3	0.0	4.3	57.3
第33回		元年	1～6月	13.3	35.6	46.7	0.0	2.2	2.2	64.8
第32回	平成	30年	7～12月	2.6	21.1	65.8	7.9	0.0	2.6	54.7
第31回		30年	1～6月	7.0	30.2	60.5	2.3	0.0	0.0	60.5
第30回		29年	7～12月	14.9	23.4	57.4	4.3	0.0	0.0	62.2
第29回		29年	1～6月	10.6	34.0	53.2	2.1	0.0	0.0	65.7
第28回		28年	7～12月	3.7	18.5	70.4	1.9	1.9	3.7	55.3
第27回		28年	1～6月	0.0	26.2	64.3	7.1	2.4	0.0	53.6
第26回		27年	7～12月	6.1	22.5	65.3	4.1	0.0	2.0	57.8
第25回		27年	1～6月	8.3	33.3	54.2	2.1	2.1	0.0	62.3
第24回		26年	7～12月	0.0	28.6	67.4	2.0	2.0	0.0	55.7
第23回		26年	1～6月	2.0	26.5	59.2	8.2	0.0	4.1	55.8
第22回		25年	7～12月	0.0	11.1	77.8	7.4	0.0	3.7	51.0
第21回		25年	1～6月	0.0	14.3	67.3	14.3	2.1	2.0	48.9
第20回		24年	7～12月	0.0	6.3	62.5	20.8	6.3	4.1	43.0
第19回		24年	1～6月	1.8	18.2	63.6	9.1	1.8	5.5	52.4
第18回		23年	7～12月	0.0	9.6	61.5	23.1	2.0	3.8	45.5
第17回		23年	1～6月	0.0	6.7	64.4	26.7	2.2	0.0	43.9
第16回		22年	7～12月	2.1	8.3	66.7	12.5	6.2	4.2	46.8
第15回		22年	1～6月	2.1	2.1	54.2	35.4	4.1	2.1	40.5
第14回		21年	7～12月	0.0	7.0	56.1	24.6	3.5	8.8	43.3
第13回		21年	1～6月	4.3	2.1	34.0	36.2	14.9	8.5	34.9
第12回		20年	7～12月	0.0	11.1	80.0	8.9	0.0	0.0	50.6
第11回		20年	1～6月	2.1	17.0	70.2	6.4	0.0	4.3	53.9
第10回		19年	7～12月	3.8	26.9	63.5	1.9	0.0	3.9	58.4
第9回		19年	1～6月	8.3	22.9	52.1	8.3	0.0	8.4	58.5
第8回		18年	7～12月	2.1	21.3	53.2	14.9	2.1	6.4	51.7
第7回		18年	1～6月	0.0	13.3	73.3	6.7	2.3	4.4	50.5
第6回		17年	7～12月	0.0	22.0	61.0	9.8	0.0	7.2	53.3
第5回		17年	1～6月	5.0	5.0	65.0	20.0	2.5	2.5	47.4
第4回		16年	7～12月	0.0	16.7	72.2	8.3	2.8	0.0	50.7
第3回		16年	1～6月	0.0	8.0	56.0	30.0	4.0	2.0	42.3
第2回		15年	7～12月	0.0	8.8	57.9	28.1	5.2	0.0	42.6

(注) 雇用見通しは第2回から実施

質問 11 資金繰りの状況(前半期との比較)

				改善した	やや改善	どちらとも いえない	やや悪化	悪化した	無回答	DI
今回	令和 2年	1~6月		8.7	8.7	26.1	39.1	13.0	4.3	39.8
前回	元年	7~12月		2.0	3.9	74.5	11.8	3.9	3.9	47.0
前々回	元年	1~6月		6.5	8.7	69.6	13.0	0.0	2.2	52.2
第33回	平成 30年	7~12月		2.2	24.4	62.2	11.1	0.0	0.0	54.4
第32回	30年	1~6月		2.6	15.8	68.4	10.5	0.0	2.6	52.6
第31回	29年	7~12月		4.7	14.0	62.8	18.6	0.0	0.0	51.3
第30回	29年	1~6月		4.3	17.0	70.2	8.5	0.0	0.0	54.3
第29回	28年	7~12月		2.1	17.0	68.1	12.8	0.0	0.0	53.1
第28回	28年	1~6月		7.4	9.3	61.1	18.5	1.9	1.9	50.5
第27回	27年	7~12月		4.3	10.9	69.6	13.0	2.0	2.2	51.7
第26回	27年	1~6月		2.0	6.2	71.4	16.4	2.0	2.0	47.4
第25回	26年	7~12月		2.1	10.4	64.6	20.8	0.0	2.1	48.4
第24回	26年	1~6月		4.0	20.0	56.0	18.0	2.0	0.0	51.5
第23回	25年	7~12月		4.1	16.3	59.2	18.4	0.0	2.0	51.6
第22回	25年	1~6月		3.7	22.2	51.9	18.5	0.0	3.7	52.9
第21回	24年	7~12月		6.1	16.3	53.1	14.3	8.2	2.0	49.4
第20回	24年	1~6月		2.1	18.8	58.3	8.3	8.3	4.2	49.5
第19回	23年	7~12月		9.1	7.3	50.0	20.9	7.2	5.5	47.4
第18回	23年	1~6月		0.0	9.6	48.1	26.9	11.6	3.8	39.5
第17回	22年	7~12月		0.0	17.8	55.6	15.6	8.8	2.2	46.1
第16回	22年	1~6月		4.2	8.3	54.2	27.1	6.2	0.0	44.3
第15回	21年	7~12月		2.1	4.2	62.5	16.7	14.5	0.0	40.7
第14回	21年	1~6月		3.5	10.5	33.3	36.8	10.6	5.3	39.3
第13回	20年	7~12月		2.1	6.4	44.7	34.0	12.8	0.0	37.8
第12回	20年	1~6月		0.0	13.3	48.9	35.6	2.2	0.0	0.0
第11回	19年	7~12月		4.3	8.5	46.8	27.7	6.3	6.4	43.8
第10回	19年	1~6月		3.8	17.3	53.8	21.2	0.0	3.9	50.9
第9回	18年	7~12月		6.3	16.7	54.2	12.5	6.1	4.2	51.2
第8回	18年	1~6月		0.0	21.3	59.6	12.8	2.0	4.3	51.2

(注) 資金繰りの状況は第8回から実施